資料研究報告

東京都内・近郊所在 19 遺跡から出土した 江戸時代人頭蓋・四肢骨の計測値

梶ヶ山真里*, 溝口 優司

国立科学博物館人類研究部

(平成 16 年 5 月 13 日受付, 平成 16 年 5 月 18 日受理)

要 約

東京都内とその近郊にある江戸時代遺跡 19 遺跡からわずかずつ出土した頭蓋・四肢骨の計測値を, 将来の比較研究の材料として, まとめて提供する。江戸御府内の遺跡から出土した頭蓋の計測値のみを仮集計した結果, その混合標本は比較した他の御府内出土江戸時代人標本とはあまり似ていなかったが, 男女ともに, 頬弓幅が非常に狭い, という特徴を持っていた。男性の頬弓幅は牧野家藩主の平均値に最も近く, 女性は北陸現代人や徳川将軍正室・側室の平均値に非常に近い値をとる。これは, 今回報告した資料の中に富裕階層の人骨が比較的多く含まれていることを示唆するものかもしれない。さらに, マハラノビスの D^2 距離によれば, 全体としては男性混合標本は東北地方現代人に, 女性混合標本は中国地方現代人に最もよく似ていた。江戸時代人骨に見られる大きな変異の原因や現代日本人の形成過程を明らかにするには, 今後も引き続き, 人骨と環境要因に関する遺跡別のデータ収集が必要である。

キーワード: 関東地方, 江戸時代人, 頭蓋, 四肢骨, 計測値

Cranial and Postcranial Measurements of the Early Modern Edo People from 19 Archeological Sites in the Tokyo Urban Area and the Suburbs

Mari Kajigayama* and Yuji Mizoguchi

Department of Anthropology, National Science Museum, Tokyo

(Received 13 May 2004; accepted 18 May 2004)

Abstract

As comparative data to be used in future anthropological studies, the cranial and postcranial measurements of the early modern Edo people from 19 archeological sites in the Tokyo urban area and the suburbs are presented here. Preliminary univariate analyses for the pooled samples of the Edo skulls only from the Tokyo urban area called “Gofunai” show that, although they do not resemble other comparative samples of the Edo period from Gofunai, both male and female pooled samples have very narrow faces. The average for bizygomatic breadth in males is closest to that for the Makinos, one of the feudal lord families of the Edo period,

---

*国立科学博物館人類研究部
〒169-0073 東京都新宿区百人町 3-23-1
E-mail: kajimari@kahaku.go.jp
©2004 The Anthropological Society of Nippon

and the average in females is very close to those for the modern Hokuriku Japanese and the wives of Tokugawa Shogun (Generals) of the Edo period. This may indicate that the samples reported here contain many skeletons of wealthy people. Further, Mahalanobis' D^2 distances show that the male pooled sample is closest to the modern Tohoku Japanese and the female one, to the modern Chugoku Japanese on the whole. In order to elucidate the causes for the large variation among skeletal samples from the Edo period as well as the microevolutionary processes of the modern Japanese, we need to make further efforts in collecting data not only on skeletal remains but also on environmental factors in each archeological site also in the future.

Key words: Kanto district, Edo people, skull, postcranial bones, measurements

近年、建設工事などに伴う行政発掘によって古人骨が発見され、地域の大学・博物館等にその鑑定が依頼される事例が急増している。掘り出された人骨資料は、たとえ研究目的で発掘されたものではないにせよ、将来とも各種情報を提供する人類共通の貴重な財産である。しかし、多くの場合、これらの人骨資料について行なわれた最初の計測・観察結果は遺跡調査会等の報告書には掲載されるが、広く学界に浸透する形で公表されることは少ない。とくに江戸時代のような新しい時代の遺跡から、わずか1～2個体しか出土していないような場合は、後の研究に貢献する機会は非常に少ない。しかし、それらの資料も寄せ集めれば有用な情報源となる。

本報告は、ここ10年ほどの間に国立科学博物館に持ち込まれた古人骨のうち、筆者の一人(梶ヶ山)が関係した、東京都内外の江戸時代遺跡出土の少数例の計測結果を、将来の比較研究の材料として、まとめて提供するものである。

資料ならびに方法

江戸時代の19遺跡から出土した成人個体の頭蓋計測値と四肢骨計測値の平均値を、男女別・遺跡別にして、表に示す(表1～4)。これらの計測は、頭蓋の19項目、上腕骨・橈骨・尺骨・脛骨・腓骨の各3項目、大腿骨の4項目について、マルチンの方法(Martin und Saller, 1957)に従って行なったものである。四肢骨は原則として右側のものを使ったが、ない場合は左側のものを代用した。なお、頭蓋も四肢骨も計測は基本的にmm単位で行なったが、遺跡によっては0.1mm単位で行なったものもある。

ここで報告する人骨がおおよそどのような性格を持つものかを参考までに記しておくため、江戸御府内の遺跡から出土した頭蓋の7計測項目についての仮集計を行ない、他の江戸時代人や中世人、現代日本人との類似関係をマハラノビスの D^2 距離(Rao, 1952; 奥野ほか, 1971)

を使って推測した。 D^2 距離の計算は東京大学情報基盤センターの大型計算機MP5800によって行なった。用いた計算プログラムは著者の一人(溝口)が書いたFORTRANプログラム、TSTD2である。

ここで取り上げた人骨資料の詳細はそれぞれの遺跡・遺物報告書に記載されているか、または、される予定であるが、以下にその概要を記しておく。

新宿区・修行寺跡(梶ヶ山・馬場, 1992)

東京都新宿区富久町2番地6号にある江戸時代前期の遺跡である。日蓮宗一致派で、下総国本土寺の末寺として修行院日城により寛永3年(1626)に麴町に創建される。その後、赤坂への移転を経て万治元年(1658)から当該地に定着する。

28基の埋葬遺構と1基の小穴が確認されている。埋葬施設は甕棺および方形木棺がほとんどである。甕の製作年代は1700年代～幕末と幅が広いが、18世紀後半～19世紀前半のものが多い。

人骨は、埋葬施設から26体、遺構外から4体、計30体発見されている。被葬者の性別は、男性12体、女性9体、不明9体である。平均推定身長は、男性156cm、女性163cmである。18号墓から出土した男性個体は、身長は低い、頭蓋では進歩的な特徴をもっている。この遺跡から出土した被葬者の多くは、江戸の一般庶民ではなく、武士あるいは豊かな商人などという富裕層であった可能性が高い。これらは、埋葬施設等によっても裏づけられる。

新宿区・圓應寺跡(梶ヶ山・馬場, 1993)

東京都新宿区若葉3丁目6番2に所在の江戸時代前期の遺跡である。黄檗宗大覚山圓應寺は、寛文6年(1666)に当該地に禅宗の庵が開かれた事に始まる。寛永8年(1631)には幕府により新地寺院の建立は禁止されていることから、相当の計らいがあった寺院であったことが窺える。

埋葬遺構はA区とB区に分けられる。A区は全体的に

表1 関東地方江戸時代人男性頭蓋計測値の遺跡別平均値¹⁾

計測項目 ²⁾ \ 遺跡名	御府内					御府外		個人		重み付き平均							
	修行寺跡 (梶ヶ山・ 馬場, 1992)	圓徳寺跡 (梶ヶ山・ 馬場, 1993)	法光寺跡Ⅱ (梶ヶ山・ 馬場, 1999)	汐留Ⅲ (松村, 2003)	八重洲北口 (梶ヶ山・ 馬場, 2003b)	八丁堀三丁目Ⅱ (梶ヶ山他, 2003)	銀座8丁目 (梶ヶ山, n.d.a)	外神田4丁目 (梶ヶ山・ 馬場, n.d.)	浅草菊屋橋 (梶ヶ山・ 溝口, n.d.a)	豊住町 (梶ヶ山・ 溝口, n.d.c)	永田 (馬場・ 梶ヶ山, 1992)	中谷 (梶ヶ山, 2001)	狩野義信 (梶ヶ山・ 馬場, 2004b)	御府内	御府外	御府内・外	
1. 頭蓋最大長	181.5 (2)	179.8 (17)	184.0 (4)	186.0 (1)	179.0 (3)	183.9 (12)	185.0 (1)	180.0 (1)	180.0 (1)	178.3 (3)	180.0 (1)	179.0 (1)	176.0 (1)	175.0 (1)	181.4 (46)	177.5 (2)	181.3 (48)
5. 頭蓋底長	105.0 (2)	101.8 (18)	102.0 (3)	110.0 (1)		103.8 (11)	98.0 (1)	103.0 (1)	96.0 (1)	101.5 (3)	102.0 (1)			103.0 (1)	102.5 (42)		102.5 (42)
8. 頭蓋最大幅	140.5 (2)	136.5 (17)	134.0 (4)	146.0 (1)	134.3 (3)	138.6 (12)	140.5 (1)	138.0 (1)	128.0 (1)	142.7 (3)	139.0 (1)	140.0 (1)	138.0 (1)	141.0 (1)	137.5 (46)	139.0 (2)	137.5 (48)
8 / 1	77.8 (2)	75.5 (17)	74.7 (4)	78.5 (1)	74.5 (2)	75.6 (12)	75.9 (1)	76.6 (1)	81.8 (1)	79.3 (3)	77.2 (1)	78.2 (1)	78.4 (1)	80.6 (1)	76.0 (45)	78.3 (2)	76.1 (47)
17. バジオン・ブレグマ高	141.5 (2)	133.0 (18)	137.0 (4)	140.0 (1)	133.0 (1)	140.2 (12)	135.0 (1)	138.0 (1)	130.0 (1)	139.7 (3)	136.0 (1)	119.0 (1)		137.0 (1)	136.4 (45)	119.0 (1)	136.0 (46)
17 / 1	77.9 (2)	74.4 (17)	75.2 (4)	75.3 (1)	94.3 (1)	76.2 (12)	72.9 (1)	76.6 (1)	72.2 (1)	77.6 (3)	75.6 (1)	66.5 (1)		78.3 (1)	75.8 (44)	66.5 (1)	75.6 (45)
9. 最小前頭幅	90.8 (2)	91.9 (18)	94.4 (4)	100.0 (1)	98.5 (2)	94.8 (12)	95.0 (1)	98.5 (1)	84.9 (1)	95.5 (3)	95.0 (1)	102.0 (1)	92.0 (1)	95.5 (1)	93.7 (46)	97.0 (2)	93.8 (48)
9 / 8	64.7 (2)	67.8 (17)	70.4 (4)	68.5 (1)	78.6 (1)	68.4 (12)	67.6 (1)	71.0 (1)	66.3 (1)	66.8 (3)	69.8 (1)	72.8 (1)	66.6 (1)	67.7 (1)	68.3 (44)	69.7 (2)	68.4 (46)
40. 顔長	100.0 (1)	96.3 (18)	95.6 (3)	105.0 (1)		100.2 (11)	92.5 (1)	90.0 (1)	100.0 (1)	97.3 (3)	98.0 (1)			83.0 (1)	97.6 (41)		97.6 (41)
45. 額弓幅	130.5 (2)	126.9 (18)	126.0 (4)	138.0 (1)	135.0 (1)	133.6 (12)	132.5 (1)	130.0 (1)	127.3 (1)	134.2 (3)	131.0 (1)	140.0 (1)		125.0 (1)	130.0 (45)	140.0 (1)	130.2 (46)
46. 中顔幅	97.0 (2)	101.1 (18)	103.2 (3)	108.0 (1)		100.3 (12)	100.0 (1)	102.0 (1)	101.0 (1)	105.7 (3)	107.0 (1)	113.0 (1)	100.0 (1)	95.0 (1)	101.4 (43)	106.5 (2)	101.7 (45)
46 / 45	81.3 (2)	79.7 (18)	82.1 (3)	78.3 (1)		75.1 (12)	72.8 (1)	78.5 (1)	79.5 (1)	78.5 (3)	81.7 (1)	80.7 (1)		76.0 (1)	78.4 (43)	80.7 (1)	78.4 (44)
47. 顔高	117.5 (2)	114.7 (18)	116.9 (4)			119.9 (12)	117.0 (1)	114.0 (1)	130.6 (1)	133.5 (1)		117.0 (1)	114.5 (1)	136.0 (1)	117.5 (40)	115.8 (2)	117.4 (42)
48. 上顔高	75.8 (2)	68.2 (18)	69.2 (3)	65.0 (1)		74.0 (12)	70.0 (1)	60.0 (1)	73.8 (1)	74.8 (3)	67.0 (1)	68.0 (1)	65.0 (1)	68.0 (1)	70.6 (43)	66.5 (2)	70.4 (45)
47 / 45	97.7 (2)	90.4 (18)	94.3 (4)			89.7 (12)	88.1 (1)	87.6 (1)	97.9 (1)	94.7 (1)		83.6 (1)		91.9 (1)	91.1 (40)	83.6 (1)	90.9 (41)
48 / 45	70.5 (2)	53.7 (18)	54.3 (3)	47.1 (1)		55.4 (12)	52.8 (1)	46.2 (1)	57.9 (1)	55.7 (3)	51.1 (1)	48.6 (1)		54.4 (1)	54.8 (43)	48.6 (1)	54.7 (44)
51. 眼窩幅	37.5 (2)	38.3 (18)	40.5 (4)	39.0 (1)	39.9 (2)	42.4 (12)	41.3 (1)	43.0 (1)	36.0 (1)	40.0 (3)	43.0 (1)	45.0 (1)	40.0 (1)	41.0 (1)	39.9 (46)	42.5 (2)	40.0 (48)
52. 眼窩高	42.0 (2)	33.6 (18)	33.1 (4)	34.0 (1)	33.9 (2)	40.6 (12)	36.0 (1)	33.0 (1)	37.0 (1)	33.2 (3)	35.5 (1)	33.0 (1)	35.5 (1)	39.0 (1)	35.9 (46)	34.3 (2)	35.8 (48)
51 / 52	89.3 (2)	87.8 (18)	81.8 (4)	87.1 (1)	86.0 (2)	95.6 (12)	86.7 (1)	76.7 (1)	97.9 (1)	83.4 (3)	82.6 (1)	73.0 (1)	86.4 (1)	95.1 (1)	88.8 (46)	79.7 (2)	88.5 (48)
54. 鼻幅	26.5 (2)	25.2 (18)	28.0 (4)	28.0 (1)		25.7 (12)	25.0 (1)	26.0 (1)	27.0 (1)	25.2 (3)	31.0 (1)	27.0 (1)	28.0 (1)	28.0 (1)	25.9 (44)	27.5 (2)	26.0 (46)
55. 鼻高	55.5 (2)	51.0 (18)	48.8 (4)	47.0 (1)		51.8 (12)	51.3 (1)	49.0 (1)	52.9 (1)	56.0 (3)	54.5 (1)	47.0 (1)	50.0 (1)	58.5 (1)	51.6 (44)	48.5 (2)	51.4 (46)
54 / 55	47.8 (2)	49.6 (18)	57.7 (4)	59.0 (1)		49.6 (12)	48.7 (1)	53.1 (1)	51.9 (1)	45.1 (3)	56.9 (1)	57.0 (1)	55.0 (1)	47.8 (1)	50.4 (44)	56.0 (2)	50.7 (46)
65. 下顎関節突起幅	114.8 (2)	118.8 (18)	121.6 (4)			119.5 (12)	129.0 (1)	128.0 (1)	133.6 (1)	119.0 (1)		124.0 (1)	117.0 (1)	117.0 (1)	120.0 (40)	124.0 (1)	120.0 (41)
66. 下顎角幅		94.7 (18)	99.6 (4)		122.0 (1)	103.8 (10)	106.5 (1)	103.0 (1)	98.0 (1)	102.0 (1)		106.0 (1)	104.0 (1)	99.3 (37)	106.0 (1)		99.4 (38)
68. 下顎長	74.0 (1)	74.0 (18)	75.9 (4)		78.3 (2)	78.5 (12)	72.5 (1)	69.5 (1)	68.0 (1)	76.0 (1)		77.0 (1)	71.0 (1)	75.5 (41)	77.0 (1)	75.5 (42)	75.5 (42)
70. 下顎枝高	64.0 (2)	57.6 (18)	57.1 (4)		65.3 (2)	58.7 (12)	60.0 (1)	56.5 (1)	74.0 (1)	71.0 (1)		63.0 (1)	62.5 (1)	59.3 (42)	63.0 (1)	59.4 (43)	59.4 (43)
71. 下顎枝幅	36.5 (2)	33.9 (18)	35.1 (4)		34.7 (2)	34.1 (10)	36.5 (1)	32.0 (1)	33.2 (1)	33.5 (1)		41.0 (1)	27.3 (1)	34.2 (40)	41.0 (1)	34.4 (41)	34.4 (41)
71 / 70	57.1 (2)	59.4 (18)	61.5 (4)		53.2 (2)	58.1 (10)	60.8 (1)	56.6 (1)	44.8 (1)	47.2 (1)		65.0 (1)		58.2 (40)	65.0 (1)	58.3 (41)	58.3 (41)

¹⁾ 括弧内は個体数。²⁾ 数字はマルチンの項目番号 (Martin und Saller, 1957)。

表2 関東地方江戸時代人女性頭蓋計測値の遺跡別平均値¹⁾

計測項目 ²⁾ \ 遺跡名	御所内				御所外		個人		重み付き平均						
	修行寺跡 (梶ヶ山・ 馬場, 1992)	圓應寺跡 (梶ヶ山・ 馬場, 1993)	法光寺跡Ⅱ (梶ヶ山・ 馬場, 1999)	八重洲北口 (梶ヶ山・ 馬場, 2003b)	八丁堀三丁目Ⅱ (梶ヶ山・ 馬場, 2003)	宝篋寺跡 (梶ヶ山・ 馬場, 2004a)	銀座8丁目 (梶ヶ山・ 馬場, 2004a)	浅草柳屋橋 (梶ヶ山・ 溝口, n.d.a)	戸田 (馬場・ 梶ヶ山, 1992)	十内入東 (松村・ 梶ヶ山, 2000)	滝台 (梶ヶ山・ n.d.b)	高正院殿 (馬場・ 梶ヶ山, 2002)	御所内	御所外	御所内・外
1. 頭蓋最大長	173.0 (1)	165.0 (2)	180.3 (2)	184.0 (1)	177.3 (5)	170.0 (1)	186.0 (1)	167.5 (2)	167.0 (1)	174.0 (1)	161.0 (1)	179.0 (1)	174.5 (16)	168.0 (3)	173.5 (19)
5. 頭蓋底長	95.0 (1)	93.2 (2)	98.0 (2)		102.6 (5)	99.0 (1)	104.0 (1)	93.0 (2)	95.0 (1)		84.0 (1)	101.0 (1)	98.3 (15)	84.0 (1)	97.4 (16)
8. 頭蓋最大幅	126.0 (1)	142.2 (2)	131.0 (2)	134.0 (1)	136.0 (6)	130.0 (1)	136.0 (1)	130.5 (2)	135.0 (1)	136.0 (1)	123.0 (1)	147.0 (1)	134.4 (17)	130.7 (3)	133.8 (20)
8 / 1	72.8 (1)	86.3 (2)	72.7 (2)		76.3 (5)	76.5 (1)	73.1 (1)	78.9 (2)	80.8 (1)	78.7 (1)	76.4 (1)	82.0 (1)	77.4 (15)	77.7 (3)	77.4 (18)
17. バジオン・ブレグマ高	135.0 (1)	131.5 (2)	128.0 (2)		135.2 (5)	136.0 (1)	135.0 (1)	127.5 (2)	135.0 (1)	109.0 (1)		88.0 (1)	132.7 (15)	109.0 (1)	131.3 (16)
17 / 1	78.0 (1)	79.8 (2)	71.5 (2)		76.3 (5)	80.0 (1)	72.6 (1)	76.1 (2)	80.8 (1)	64.5 (1)	74.5 (1)	75.0 (1)	76.5 (15)	69.5 (2)	75.7 (17)
9. 最小前頭幅	87.5 (1)	89.2 (2)	91.5 (2)		91.8 (5)	97.2 (1)	94.6 (1)	106.4 (2)	90.5 (1)	91.0 (1)	84.0 (1)	88.0 (1)	93.5 (15)	87.7 (3)	92.6 (18)
9 / 8	69.4 (1)	62.8 (2)	69.9 (2)		67.5 (5)	75.0 (1)	69.6 (1)	81.5 (2)	67.0 (1)	68.4 (1)	68.3 (1)	60.0 (1)	69.8 (15)	68.4 (2)	69.6 (17)
40. 顔長	85.0 (1)	87.0 (2)	106.0 (1)		99.2 (5)	97.0 (1)	102.0 (1)	88.0 (2)	91.0 (1)		92.0 (1)	96.0 (1)	94.8 (14)	92.0 (1)	94.6 (15)
45. 頬弓幅	110.0 (1)	121.5 (2)	121.0 (1)		127.5 (5)	115.0 (1)	121.0 (1)	126.1 (2)	123.0 (1)	127.0 (1)	120.0 (1)	127.0 (1)	123.1 (14)	123.5 (2)	123.1 (16)
46. 中顔幅	87.2 (1)	90.2 (2)	96.0 (1)		94.2 (5)	89.0 (1)	101.2 (1)	103.3 (2)	89.0 (1)	101.0 (1)	95.0 (1)	90.0 (1)	94.3 (14)	98.0 (2)	94.8 (16)
46 / 45	81.1 (1)	74.2 (2)	79.3 (1)		73.9 (5)	77.4 (1)	84.3 (1)	81.9 (2)	72.4 (1)	79.5 (1)	79.1 (1)	93.0 (1)	76.9 (14)	79.3 (2)	77.2 (16)
47. 顔高		124.0 (1)	111.0 (1)		114.8 (6)	110.0 (1)		115.9 (1)		106.0 (1)	108.0 (1)	115.0 (1)	115.0 (10)	107.7 (3)	113.3 (13)
48. 上顔高	60.0 (1)	65.0 (2)	62.0 (1)		69.7 (6)	67.0 (1)	64.0 (1)	70.9 (1)	66.5 (1)	63.0 (1)	68.0 (1)	72.0 (1)	67.0 (14)	64.7 (3)	66.6 (17)
47 / 45		102.4 (1)	91.7 (1)		90.0 (5)	95.6 (1)		91.9 (1)		83.5 (1)	87.9 (1)	93.0 (1)	92.4 (9)	85.7 (2)	91.2 (11)
48 / 45	69.0 (1)	53.5 (2)	51.2 (1)		54.6 (5)	60.9 (1)	52.9 (1)	56.2 (1)	54.1 (1)	66.3 (1)	56.7 (1)	58.0 (1)	55.7 (13)	61.5 (2)	56.5 (15)
51. 眼窩幅	32.5 (1)	34.3 (2)	41.0 (1)	39.6 (1)	40.3 (6)	37.0 (1)	38.9 (1)	39.1 (2)	36.0 (1)	39.0 (1)	39.0 (1)	36.0 (1)	38.4 (16)	39.7 (3)	38.6 (19)
52. 眼窩高	38.0 (1)	33.1 (2)	33.0 (1)	34.5 (1)	37.7 (6)	32.5 (1)	29.0 (1)	37.8 (2)	32.5 (1)	32.0 (1)	30.0 (1)	38.0 (1)	35.5 (16)	32.3 (3)	35.0 (19)
51 / 52	85.5 (1)	96.5 (2)	80.5 (1)	87.1 (1)	93.5 (6)	87.8 (1)	74.5 (1)	104.1 (2)	90.2 (1)	82.0 (1)	89.7 (1)	106.0 (1)	91.7 (16)	81.6 (3)	90.1 (19)
54. 鼻幅	23.9 (1)	23.6 (2)	26.5 (1)	29.0 (1)	28.5 (6)	27.0 (1)	27.8 (1)	27.9 (2)	21.0 (1)	25.0 (1)	24.0 (1)	27.0 (1)	26.8 (16)	25.5 (3)	26.6 (19)
55. 鼻高	47.0 (1)	47.0 (2)	49.0 (1)		41.8 (6)	48.0 (1)	43.8 (1)	53.4 (2)	47.5 (1)	43.0 (1)	47.0 (1)	54.0 (1)	45.8 (15)	47.7 (3)	46.1 (18)
54 / 55	50.9 (1)	51.8 (2)	54.1 (1)		68.2 (6)	56.3 (1)	63.5 (1)	52.3 (2)	44.7 (1)	58.0 (1)	45.2 (1)	49.0 (1)	59.1 (15)	53.9 (3)	58.3 (18)
65. 下顎関節突起幅		111.2 (1)	113.0 (2)	122.0 (1)	115.0 (6)	106.0 (1)		127.0 (1)				112.0 (1)	115.2 (12)		115.2 (12)
66. 下顎角幅		89.5 (1)	95.5 (2)	100.0 (1)	92.2 (6)	90.0 (1)		104.5 (1)		100.0 (1)	97.0 (1)	95.0 (1)	94.0 (12)	98.5 (2)	94.7 (14)
68. 下顎長		66.0 (1)	77.5 (2)	81.0 (1)	73.5 (7)	78.0 (1)		63.3 (2)		70.0 (1)	64.0 (1)	69.0 (1)	72.9 (14)	67.0 (2)	72.2 (16)
70. 下顎枝高	62.0 (1)	53.5 (1)	51.5 (2)	52.1 (1)	54.0 (7)	48.5 (1)		60.3 (2)		51.0 (1)	48.0 (1)	51.0 (1)	54.5 (15)	49.5 (2)	53.9 (17)
71. 下顎枝幅	32.0 (1)	30.2 (1)	31.5 (2)	30.0 (1)	32.1 (7)	28.0 (1)		29.0 (2)		37.0 (1)	27.5 (1)	30.0 (1)	31.1 (15)	32.5 (3)	31.3 (18)
71 / 70	51.6 (1)	56.4 (1)	61.2 (2)	57.6 (1)	59.4 (7)	57.7 (1)		48.7 (2)		72.5 (1)	57.3 (1)	59.0 (1)	57.3 (15)	60.4 (3)	57.8 (18)

¹⁾ 括弧内は個体数。²⁾ 数字はマルチンの項目番号 (Martin und Saller, 1957)。

表3 関東地方江戸時代人男性四肢骨計測値の遺跡別平均値¹⁾

計測項目 ²⁾ \ 遺跡名	御府内					御府外			個人		重み付き平均					
	修行寺跡 (梶ヶ山・ 馬場, 1992)	圓應寺跡 (梶ヶ山・ 馬場, 1993)	汐留Ⅲ (梶ヶ山・ 馬場, 2003a)	八重洲北口 (梶ヶ山・ 馬場, 2003b)	八丁堀三丁目Ⅱ (梶ヶ山他, 2003)	浅草菊屋橋 (梶ヶ山・ 溝口, n.d.a)	台東区 NO.57 (梶ヶ山・ 溝口, n.d.b)	銀座8丁目 (梶ヶ山, n.d.a) ³⁾	外神田 4丁目 (梶ヶ山・ 馬場, n.d.)	沢田 (馬場・ 梶ヶ山, 1992)	中谷 (梶ヶ山, 2001)	兼情 (梶ヶ山・ 馬場, 2002)	狩野善信 (梶ヶ山・ 馬場, 2004b)	御府内 ⁴⁾	御府外	御府内・外 ⁴⁾
上腕骨：																
1. 最大長	292.0 (2)	278.3 (38)	281.5 (2)		301.6 (12)	308.0 (1)	315.0 (1)	293.0 (7)	290.0 (1)	306 (6)		295.0 (1)	298.0 (1)	285.2 (57)	304.4 (7)	287.3 (64)
5. 中央最大径	21.5 (2)	21.2 (38)	21.1 (2)	19.7 (5)	19.6 (12)	23.6 (1)	19.1 (2)	22.2 (9)	20.0 (1)	22 (10)	21.8 (2)	20.5 (2)	21.0 (1)	20.7 (63)	21.8 (14)	20.9 (77)
6. 中央最小径	18.5 (2)	16.6 (38)	17.4 (2)	17.9 (5)	16.8 (12)	18.1 (1)	16.0 (2)	18.0 (9)	16.2 (1)	18.3 (10)	19.0 (2)	16.5 (2)	17.0 (1)	16.8 (63)	18.1 (14)	17.1 (77)
6/5. 体断面示数	86.0 (2)	80.3 (38)	81.3 (2)	83.7 (5)	85.7 (12)	76.7 (1)	83.5 (2)	81.1 (9)	81.0 (1)	83.3 (10)	88.8 (2)	80.1 (2)	82.9 (1)	81.9 (63)	83.6 (14)	82.2 (77)
桡骨：																
1. 最大長	212.0 (2)	219.9 (38)	219.0 (2)	240.0 (1)	223.9 (12)	230.0 (1)	239.0 (1)	235.0 (3)	222.0 (1)	236.2 (4)		221.0 (1)	222.0 (1)	221.3 (58)	233.2 (5)	222.3 (63)
4. 体横径	17.0 (2)	15.8 (38)	16.0 (2)	17.1 (6)	15.1 (12)	15.9 (1)	14.5 (2)	16.0 (7)	16.3 (1)	16.7 (8)		15.0 (2)	13.5 (1)	15.8 (64)	16.4 (10)	15.9 (74)
5. 体矢状径	12.1 (2)	11.7 (38)	11.4 (2)	13.7 (6)	11.9 (12)	13.0 (1)	10.5 (2)	17.0 (7)	12.0 (1)	10.8 (8)		11.0 (2)	11.5 (1)	11.9 (64)	10.8 (10)	11.8 (74)
5/4. 体断面示数	72.1 (2)	72.2 (38)	71.2 (2)	79.4 (6)	78.8 (12)	81.7 (1)	73.4 (2)	81.3 (7)	73.6 (1)	74.4 (8)		73.3 (2)	85.2 (1)	74.3 (64)	74.2 (10)	74.3 (74)
尺骨：																
1. 最大長	243.0 (2)	233.9 (38)	236.5 (2)		241.8 (12)	250.0 (1)	257.0 (1)	255.0 (8)	238.0 (1)	244 (2)		240.0 (1)	238.0 (1)	236.7 (57)	242.7 (3)	237.0 (60)
11. 背掌径	13.8 (2)	12.2 (38)	15.9 (2)	12.6 (6)	14.2 (12)	12.3 (1)	10.8 (2)	12.0 (10)	13.2 (1)	12.9 (11)		12.0 (2)	12.5 (1)	12.8 (64)	12.8 (13)	12.8 (77)
12. 横径	18.8 (2)	15.8 (38)	19.8 (2)	15.4 (6)	16.1 (12)	17.1 (1)	14.8 (2)	15.5 (10)	15.2 (1)	16.4 (11)		16.0 (2)	15.5 (1)	16.0 (64)	16.3 (13)	16.1 (77)
11/12. 体断面示数	73.6 (2)	78.2 (38)	79.1 (2)	82.5 (6)	88.2 (12)	71.9 (1)	74.5 (2)	77.4 (10)	86.8 (1)	78.7 (11)		75.0 (2)	80.6 (1)	80.3 (64)	78.1 (13)	79.9 (77)
大腿骨：																
1. 最大長	409.5 (2)	411.6 (38)	393.5 (2)	415.0 (2)	415.0 (12)		360.0 (1)	405.0 (3)	386.0 (1)	422.7 (3)		410.0 (2)	400.0 (1)	410.4 (58)	417.6 (5)	411.0 (63)
6. 中央矢状径	26.0 (2)	26.1 (38)	25.7 (2)	27.0 (6)	26.6 (12)	30.8 (1)	22.8 (2)	29.0 (9)	26.8 (1)	25.4 (14)	29.0 (2)	25.0 (2)	28.5 (1)	26.2 (64)	25.8 (18)	26.1 (82)
7. 中央横径	29.3 (2)	26.0 (38)	24.9 (2)	26.8 (6)	26.6 (12)	29.8 (1)	23.0 (2)	27.0 (9)	25.0 (1)	26.4 (14)	26.5 (2)	25.0 (2)	23.0 (1)	26.2 (64)	26.3 (18)	26.2 (82)
8. 中央周	86.5 (2)	83.8 (38)	86.5 (2)	87.2 (6)				86.0 (9)	80.0 (1)	87.9 (14)	87.5 (2)	80.0 (2)	82.0 (1)	84.4 (49)	87.0 (18)	85.1 (67)
6/7. 体中央断面示数	88.8 (2)	97.4 (38)	103.3 (2)	100.9 (6)	100.0 (12)	103.4 (1)	101.3 (2)	107.4 (9)	107.2 (1)	97.8 (14)	109.8 (2)	100.0 (2)	120.8 (1)	98.5 (64)	99.4 (18)	98.7 (82)
胫骨：																
1a. 最大長	342.0 (2)		340.0 (2)		335.4 (12)			248.0 (2)		330.6 (2)		325.0 (1)	330.0 (1)	336.8 (16)	328.7 (3)	335.5 (19)
8. 中央最大径	28.0 (2)	28.1 (38)	26.8 (2)	30.5 (4)	28.2 (12)	30.2 (1)		31.0 (9)	25.0 (1)	30.5 (10)	22.0 (1)	24.8 (2)	29.5 (1)	28.2 (60)	29.0 (13)	28.4 (73)
9. 中央横径	20.2 (2)	20.9 (38)	21.5 (2)	21.8 (4)	21.3 (12)	31.2 (1)		21.0 (9)	20.5 (1)	21.5 (10)	30.5 (1)	20.0 (2)	18.5 (1)	21.2 (60)	22.0 (13)	21.3 (73)
9/8. 体中央断面示数	71.7 (2)	74.3 (38)	81.1 (2)	71.6 (4)	75.5 (12)	103.3 (1)		67.8 (9)	82.0 (1)	70.9 (10)	72.1 (1)	80.6 (2)	62.7 (1)	75.1 (60)	72.5 (13)	74.6 (73)
腓骨：																
1. 最大長		298.0 (38)	335.0 (1)		328.2 (9)							322.0 (1)	330.0 (1)	304.4 (48)	322.0 (1)	304.8 (49)
2. 中央最大径		12.2 (38)	15.0 (1)	15.5 (4)	15.2 (12)	13.3 (1)	13.5 (1)	16.5 (7)			16.0 (1)	13.0 (2)	15.5 (1)	13.2 (57)	14.0 (3)	13.2 (60)
3. 中央最小径		8.8 (38)	12.5 (1)	11.7 (4)	9.6 (12)	10.9 (1)	9.0 (1)	11.0 (7)			11.0 (1)	11.0 (2)	9.5 (1)	9.3 (57)	11.0 (3)	9.4 (60)
3/2. 中央断面示数		72.3 (38)	83.3 (1)	75.6 (4)	63.1 (12)	81.9 (1)	66.7 (1)	66.7 (7)			66.6 (1)	84.5 (2)	61.3 (1)	70.9 (57)	78.5 (3)	71.2 (60)

1) 括弧内は個体数。

2) 数字はマルチンの項目番号 (Martin und Saller, 1957)。

3) 左右混合。女性のもも若干混じっている可能性がある。括弧内は骨の個数。

4) 銀座8丁目遺跡は除く。

表4 関東地方江戸時代人女性四肢骨計測値の遺跡別平均値¹⁾

計測項目 ²⁾ \ 遺跡名	御府内				御府外		個人		重み付き平均					
	修行寺跡 (梶ヶ山・馬場, 1992)	圓應寺跡 (梶ヶ山・馬場, 1993)	八重洲北口 (梶ヶ山・馬場, 2003b)	八丁堀三丁目Ⅱ (梶ヶ山他, 2003)	宝竜寺跡 (梶ヶ山・馬場, 2004a)	浅草菊屋橋 (梶ヶ山・溝口, n.d.a)	台東区NO.57 (梶ヶ山・溝口, n.d.b)	沢田 (馬場・梶ヶ山, 1992)	十内入東 (松村・梶ヶ山, 2000)	滝台 (梶ヶ山, n.d.b)	清高院殿と高正院殿 (馬場・梶ヶ山, 2002)	御府内	御府外	御府内・外
上腕骨：														
1. 最大長	268.0 (3)	242.0 (7)	270.0 (1)	271.7 (4)	250.0 (1)	17.5 (3)	19.5 (1)	272.5 (1)	18.0 (1)	21.0 (1)	16.9 (2)	256.6 (16)	272.5 (1)	257.5 (17)
5. 中央最大径	21.0 (3)	18.7 (7)	19.9 (1)	17.9 (6)	19.2 (1)	17.5 (3)	19.5 (1)	19.2 (5)	18.0 (1)	21.0 (1)	16.9 (2)	18.7 (22)	19.3 (7)	18.9 (29)
6. 中央最小径	14.0 (3)	15.3 (7)	16.9 (1)	14.6 (6)	14.5 (1)	16.9 (3)	15.0 (1)	16.7 (5)	15.0 (1)	14.5 (1)	14.2 (2)	15.2 (22)	16.1 (7)	15.4 (29)
6/5. 体断面示数	66.7 (3)	82.5 (7)	77.9 (1)	81.5 (6)	75.5 (1)	75.2 (3)	76.9 (1)	85.8 (5)	83.3 (1)	75.9 (1)	85.1 (2)	78.3 (22)	84.0 (7)	79.7 (29)
桡骨：														
1. 最大長	188.0 (3)	191.5 (7)		207.6 (4)	183.0 (1)			200.2 (4)		200.0 (1)	202.0 (2)	194.5 (15)	200.2 (5)	195.9 (20)
4. 体横径	14.5 (3)	14.3 (7)	15.1 (1)	13.9 (6)	13.5 (1)	14.5 (3)	14.0 (1)	15.2 (5)	12.0 (1)	12.6 (1)	13.3 (2)	14.2 (22)	14.4 (7)	14.3 (29)
5. 体矢状径	11.3 (3)	9.7 (7)	10.5 (1)	9.9 (6)	9.2 (1)	10.7 (3)	10.0 (1)	10.2 (5)	9.0 (1)	9.0 (1)	9.6 (2)	10.1 (22)	9.9 (7)	10.1 (29)
5/4. 体断面示数	77.9 (3)	67.3 (7)	69.5 (1)	71.2 (6)	73.6 (1)	73.4 (3)	71.4 (1)	69.7 (5)	75.5 (1)	71.4 (1)	72.1 (2)	71.2 (22)	70.8 (7)	71.1 (29)
尺骨：														
1. 最大長	200.0 (3)			227.5 (4)	198.0 (1)			219.2 (5)		215.0 (1)	218.0 (1)	213.5 (8)	218.5 (6)	215.6 (14)
11. 背掌径	12.5 (3)	10.3 (7)	10.8 (1)	10.9 (6)	9.5 (1)	10.7 (3)	10.0 (1)	12.3 (5)	10.0 (1)	10.0 (1)	10.7 (2)	10.8 (22)	11.6 (7)	11.0 (29)
12. 横径	14.5 (3)	13.5 (7)	14.7 (1)	14.2 (6)	12.5 (1)	13.7 (3)	17.0 (1)	14.6 (5)	12.5 (1)	13.1 (1)	14.2 (2)	14.0 (22)	14.1 (7)	14.0 (29)
11/12. 体断面示数	86.2 (3)	76.4 (7)	73.5 (1)	76.8 (6)	76.0 (1)	77.8 (3)	58.8 (1)	73.9 (5)	80.0 (1)	76.3 (1)	75.6 (2)	77.1 (22)	75.1 (7)	76.6 (29)
大腿骨：														
1. 最大長	373.0 (3)	365.0 (7)		360.2 (6)	360.0 (1)			378.0 (2)		395.0 (1)	395.0 (1)	364.4 (17)	383.7 (3)	367.3 (20)
6. 中央矢状径	24.0 (3)	22.2 (7)		22.0 (6)	21.5 (1)	25.3 (3)	24.5 (1)	22.8 (7)	23.0 (1)	21.5 (1)	22.5 (2)	22.9 (21)	22.7 (9)	22.8 (30)
7. 中央横径	25.0 (3)	23.0 (7)		23.8 (6)	19.0 (1)	23.5 (3)	23.0 (1)	26.3 (7)	25.0 (1)	23.2 (1)	23.6 (2)	23.4 (21)	25.8 (9)	24.1 (30)
8. 中央周	73.0 (3)	72.6 (7)			63.0 (1)			79.2 (7)		70.0 (1)	72.5 (2)	71.8 (11)	78.1 (8)	74.5 (19)
6/7. 体中央断面示数	96.0 (3)	96.9 (7)		92.4 (6)	113.2 (1)	107.9 (3)	106.5 (1)	84.9 (7)	92.0 (1)	92.6 (1)	95.3 (2)	98.3 (21)	86.5 (9)	94.8 (30)
脛骨：														
1a. 最大長	295.0 (3)	295.0 (7)		312.0 (4)	300.0 (1)			307.0 (4)			320.0 (1)	299.9 (15)	307.0 (4)	301.4 (19)
8. 中央最大径	19.3 (3)	23.1 (7)		25.3 (6)	21.5 (1)	22.6 (2)	23.5 (1)	26.4 (6)	23.5 (1)	25.7 (1)	24.3 (2)	23.1 (20)	26.0 (8)	23.9 (28)
9. 中央横径	26.5 (3)	17.9 (7)		15.3 (6)	18.0 (1)	17.0 (2)	17.0 (1)	18.6 (6)	18.0 (1)	17.9 (1)	16.8 (2)	18.3 (20)	18.4 (8)	18.3 (28)
9/8. 体中央断面示数	72.8 (3)	77.5 (7)		60.5 (6)	83.7 (1)	75.2 (2)	72.3 (1)	70.4 (6)	76.5 (1)	69.6 (1)	69.3 (2)	71.5 (20)	71.1 (8)	71.4 (28)
腓骨：														
1. 最大長		298.0 (7)		304.8 (4)							315.0 (1)	300.5 (11)		300.5 (11)
2. 中央最大径		12.2 (7)		11.9 (6)	11.5 (1)		13.0 (1)			12.3 (1)	13.0 (2)	12.1 (15)	12.3 (1)	12.1 (16)
3. 中央最小径		8.8 (7)		9.6 (6)	8.5 (1)		8.2 (1)			9.3 (1)	10.6 (2)	9.1 (15)	9.3 (1)	9.1 (16)
3/2. 中央断面示数		72.3 (7)		80.7 (6)	73.9 (1)		63.1 (1)			75.3 (1)	81.9 (2)	75.2 (15)	75.3 (1)	75.2 (16)

¹⁾ 括弧内は個体数。²⁾ 数字はマルチンの項目番号 (Martin und Saller, 1957)。

整然と分布し、内部施設は甕棺が最も多く、方形木棺、円形木棺となっている。人骨は39個体発見され、男女比が8:3である。年齢層は幼児～熟年と特にかたよりはない。一方、B区は不規則に埋葬遺構が重複し、密集した状態である。内部施設は、方形木棺や円形木棺が最も多く、甕棺埋葬はない。人骨は52個体発見されている。男女比はほぼ8:1で男性が多い。推定身長は男性が156.6cm、女性が140.8cmである。A区とB区の被葬者の間に形態的な差は認められない。当該地から出土した人骨は埋葬施設や副葬品に特別なものはないが、形態的には一般庶民と異なる特徴がみられた。特にB区46号墓、B区49号墓の頭蓋は顔面が細く、顎が華奢である。寺の縁起から判断するとある程度の身分の者が埋葬されていた可能性は十分予測できる。

新宿区・法光寺跡Ⅱ（梶ヶ山・馬場, 1999）

東京都新宿区荒木町16番地にある江戸時代前期の遺跡である。日蓮宗越後国蒲原郡本成寺末として赤坂一ツ木村に寛永3年（1626）に創建される。その後、2回の移転を経て、寛永9年（1669）に当該地に転入する。

埋葬施設は17世紀末から幕末にかけて3期に区分され、内部施設は円形木棺が70%近くを占める。それ以外は甕棺や方形木棺などである。

人骨の総数は少なくとも37個体である。そのうち、人骨の保存状態が概ね良好で、年齢・性別が同定できたものは、男性13体と女性7体である。頭蓋はやや長頭傾向であり、それに伴ない顔面も狭い。

港区・汐留遺跡Ⅲ（松村, 2003；梶ヶ山・馬場, 2003a）

汐留遺跡は、東京都港区東新橋1丁目5番地他の、江戸前島と呼ばれている沖積堆積地の南側に広がる湿地帯上にある。敷地自体は江戸時代初期に埋め立てられた造成地であり、播磨国龍野藩脇坂家・陸奥国仙台藩伊達家・陸奥国会津藩保科家の屋敷が存在していた。今回出土した人骨は、伊達家屋敷を造成した際の埋め立て層から出土したものである。時期的には江戸前期（17世紀前半）に位置づけられる。頭蓋および四肢骨は概ね江戸時代平均と大差ない。推定身長は約153cmである。

中央区・東京駅八重洲北口遺跡（梶ヶ山・馬場, 2003b）

東京駅八重洲北口のビル建設に伴い、土坑墓から人骨が発見された。年代は1600年前後で、17世紀初頭、江戸に幕府が開かれたところである。調査区域はA区とB区に分けられ、A区では墓坑9基、墓坑以外の遺構11地点から、B区では墓坑1基、墓坑以外の遺構8地点から人骨が出土している。A区およびB区とも墓坑から発見された人骨は14体である。副葬品としてメダイやロザリオ

が発見されている。等身大の木棺に仰臥伸展葬のものと土坑直葬の埋葬方法があり、同様のキリシタン墓地の埋葬と一致する。

頭蓋の顕著な特徴として、S-1966墓坑の頭蓋2以外は中頭～長頭である。中頭に分類されるものでも長頭に近いものが多く、S-1966墓坑の頭蓋5にいたっては過長頭である。四肢骨の太さは当時の平均値を上回りやや頑丈な傾向が窺える。江戸幕府の開幕前後の遺跡であるが、出土人骨の頭蓋は長頭であり、中世の頭蓋の特徴を示している。

中央区・八丁堀三丁目Ⅱ遺跡（梶ヶ山ほか, 2003）

東京都中央区八丁堀三丁目20番地所在の遺跡である。「武州豊島郡江戸庄図」によると、当区域は日蓮宗朗惺寺の墓地であったことが確認できる。この寺院は江戸時代初期（慶長年間1597年～1614年頃）に創建され、明暦の大火（1657年）以降、品川区に移転している。寛永通宝が副葬品として出土していることから、寛永通宝初鋳当時（1636年頃）を中心に墓地が造営されたと思われる。したがって人骨の年代は、江戸時代初期（17世紀前半）のものであることが裏付けられる。

人骨は900体近く出土した。埋葬施設の確認件数は、火葬墓および被火葬墓合わせて719基である。切り合いによる重複やまぎれ込み等を考慮すると、出土人骨数と概ね一致する。土葬墓から出土した人骨については、成人と未成年の割合が1:4となり、未成年者骨の占める割合が極めて高い。一方、火葬墓（焼骨が出土した墓）から出土した人骨では、成人と未成年の割合はほぼ4:1であった。性別は、土葬骨の成年の比率のみを比較した結果、男:女=3:2であった。墓の位置については、墓域内で男女のものが混在している。また、成人と未成年のものも混在しており、明確な傾向はないと思われる。形態的には、頭蓋および四肢骨の大きさは江戸時代庶民とほとんど大差ない。顔面は江戸時代庶民として一般的な傾向を示す。眉間の隆起が弱く、鼻根部の平坦な個体が多い。前頭骨頬骨突起および頬骨弓は平均的な太さである。下顎骨も平均的な大きさである。四肢骨の長さや太さも江戸時代庶民と大差ない。大腿骨から推定される身長は、男性は157.4cm、女性は143.8cmである。この数値は江戸時代男女の推定身長と一致する。

新宿区宝竜寺跡（梶ヶ山・馬場, 2004a）

東京都新宿区弁天町のマンション建設に伴う立会い調査の際に出土した人骨である。当地は、江戸時代において天台宗宝竜寺が所在しており、人骨はその墓地にあたる部分から出土したと思われる。取り上げ図面、埋葬状

況などの詳細な情報は無い。

発見された4体の内訳は男女2体ずつであり、そのうち1地点(1号墓)から出土した女性人骨はほぼ完全である。その頭蓋は最大長および最大幅とも江戸時代女性平均より小さい。顔面の高さは平均的であるが、幅が狭いため、顔高が高い印象を受ける。

中央区・銀座8丁目遺跡(梶ヶ山, n.d.a)

ビル建設工事にもない、東京都中央区銀座8丁目(第一ホテル跡地南端)から江戸時代の人骨が数体分出土した。当遺跡周辺の汐留遺跡、八丁堀遺跡などからは大量の人骨が一括発掘されている。出土人骨自体の保存状態は良好であるが、数体分が混在した状態で発見された。当地は江戸時代半ば以降は町屋であった。そのため、それに伴う人骨とは考え難く、それ以前の寺社地に伴う人骨であろうと思われる。

今回出土した人骨には、男性頭蓋2点、女性頭蓋1点をはじめとして、成人の左尺骨が7点発見されていることから、少なくとも成人7個体が含まれていたことは間違いない。7個体分の左尺骨のうち6点は男性と思われる。さらに、骨頭線が残る上腕骨が保存されているので性別不明の青年1個体(15~17才;形態的には江戸時代男性としても矛盾はないが)、幼児(2~3才)2個体分の人骨がある。最少個体数は11個体となる。ただし、骨の残存量は個体数の割には多くない。

なお、表3の男性四肢骨計測値表にある当該遺跡の平均値は、個体識別が困難であったため、左右の骨を混合して計算したものである。したがって、括弧内の数値は個体数ではなく、計測可能な骨の個数である。また、同じ理由で、男性四肢骨計測値表には女性のものも若干混じっている可能性がある。

千代田区・外神田4丁目遺跡(梶ヶ山・馬場, n.d.)

当遺跡は、東京都千代田区外神田4丁目14番地で見つかった江戸時代前期の遺跡である。江戸時代の絵図によると武家地と町地に当たり、人骨が発見された箇所は最下層の8面であった。明暦の大火以前(1640)の門跡や中国銭(17世紀初め)が検出されている地点である。その地点は寺域および墓域と推測されるが確認できない。

人骨は、早桶や方形木棺に埋葬されている。18箇所から人骨が出土し、20体分の人骨が確認できる。6体が成人、14体は未成年である。ここに報告する成人男性1個体は、計測値からみると、頭蓋が全体的に華奢で、特に顔面や下顎骨が小さい。顔面が華奢であるのは、江戸時代においては、一般に、武士階級などの上流階級に見られる特徴で、その場合、同時に顎骨の発育不全による歯

の不正咬合も顕著にみられる。しかしながら、当人骨には顎骨の発育不全はなく、歯の不正咬合もみられない。四肢骨は、関東地方の江戸時代人男性平均に比べて、短く細い。江戸時代庶民としても、身長(推定身長約150cm)は低く、筋肉の発達も弱い。小柄な男性といえる。

台東区・浅草菊屋橋遺跡(梶ヶ山・溝口, n.d.a)

東京都台東区寿一丁目19番地および20番地に所存する遺跡である。

人骨は幾重にも重った、円形や方形の木棺墓から出土した。文献資料によると当区域は「竜宝寺」の境内と推測され、長期間墓地が形成されていたことが窺える。

当遺跡から出土した人骨は少なくとも63体である。ほとんどが成人で、性別の偏りはない。女性において短頭傾向が強い。顔面では、男女とも高顔で現代的な傾向がみられる。特に、52号墓から出土した頭蓋においては、眼窩が大きく、高眼窩型である。徳川将軍家の正室および側室の中で眼窩示数の最も高い、11代将軍正室高廣大院(眼窩示数97.6)を上回る。脳頭蓋および顔面も小さく華奢である。四肢骨では、男性個体は江戸時代人としては比較的大きく頑丈であるが、女性個体は江戸時代女性として平均的な体格である。

台東区・NO.57遺跡(梶ヶ山・溝口, n.d.b)

東京都台東区NO.57遺跡は台東区西浅草3丁目にあり、人骨は慶印寺の墓地にあたる地点から出土している。人骨のほとんどは甕棺をはじめ方形や円形木棺から発見され、少なくとも41個体を数える。年齢や性別に極端な偏りはない。また、出土人骨の骨格は、頭蓋は短頭傾向が強く、特に地点2から出土した頭蓋は、前頭部が広い。顔面では眼窩が大きく、上下に高い。特に、地点1出土の頭蓋は非常に高い。男性頭蓋の眉間から鼻根部への陥入、鼻根部から鼻背への隆起が強く、江戸時代人というよりもやや現代人的な傾向が窺える。

台東区・豊住町遺跡(梶ヶ山・溝口, n.d.c)

東京都台東区下谷1-5所在の遺跡で、人骨は2区の土坑など、計21地点から発見されている。それぞれ部分的に混入もあったが、概ね1地点1体と判断してさしつかえない。したがって、出土した人骨の総数は少なくとも21体である。そのうち焼骨は14体であり、それ以外は非焼骨である。供伴している漆塗りの位牌の年代から17世紀中頃のものと思われる。

男性頭蓋の計測値は、ほぼ、江戸時代男性平均値と一致している。左大腿骨骨体の太さは江戸時代男性平均値に近い。3区104号早桶から検出された左尺骨の最大長は260mmであり、江戸時代男性平均値を大きく上回る。

尺骨の最大長が長いので、当然橈骨もそれに準じて長く、中手骨および中足骨の骨体も長い。尺骨の最大長が江戸時代男性平均値を大きく上回る事から判断すると、当人骨の身長は160cm以上はあったと思われる。

茨城県・沢田遺跡（馬場・梶ヶ山，1992）

茨城県那珂湊市阿字ヶ浦町字青塚にある。当遺跡は主に中近世の製塩跡である。人骨は砂地に埋葬され、出土地点の明確なものが73体、不明なものが17体、合計90体である。前記73体のうち未成年は30体、成人43体である。成人個体の性別は、男性22体、女性17体、不明4体であった。したがって、出土人骨群は製塩施設で働いていた集団の家族と推測できる。

男女とも顔面が低く、寸の詰まった印象である。体格は御府内の集団と比較して同程度、あるいはやや小柄である。しかし、男女とも、非常に強壮な個体と華奢な個体が混ざっている。平均推定身長は、男性が159cm、女性が141cmである。また、顎の発達や歯の咬耗は、御府内の人骨よりも著しい。

八王子市・十内入東遺跡（松村・梶ヶ山，2000）

十内入東遺跡は東京都八王子市にある遺跡で、近世（一部中世）の墓坑から人骨が12体発見された。時期は、265号墓が中世（16世紀）である以外は、すべて江戸時代後半（18世紀）とされる。性別には偏りがなく、すべて成人であり、乳児や幼児の人骨はない。

27号墓人骨の顔面は、眼窩が低く、眼窩上縁が直線的な点で縄文時代的な形質を残しているが、それ以外の鼻根部が平坦である点など古墳時代人以降から近世にかけての人骨と変わりはない。458号墓人骨も、やや長頭傾向が強い点は中世的であるが、四肢骨や体幹骨も含めて、全体として江戸時代人の平均的形態を有する。

千葉県・中谷遺跡（梶ヶ山，2001）

千葉県山武郡松尾町中谷にある遺跡で、中近世の墓域から土葬墓や火葬墓が約100基発見されている。そのうちの約20基から28体の人骨が出土したが、半数が乳幼児であり、乳幼児死亡率の高さが窺える。成人は11体で、性別判定が可能であったのは男性5体のみである。

形態的には、上顔高がやや低いが、縄文時代的ではない。頭蓋および四肢骨は古墳時代人以降の特徴をあらわし、近世の人骨として平均的である。

静岡県・兼情遺跡（梶ヶ山・馬場，2002）

兼情遺跡は、静岡県小笠郡大東町海戸地内に所在の江戸時代中期の遺跡である。人骨は、丘陵裾野部分の地山層を掘り込んだ土坑墓2基から、頭を西に向けた屈葬状態で出土している。1号墓から出土した人骨は壮年男性

であり、3号墓から出土した人骨は、15～18才前後であるために性差が明確に現れていないが、男性の可能性が高い。1号人骨については、顔面は低顔で、過狭顔である。その上、下顎骨は華奢で、歯列弓が小さく、いわゆる「乱杭歯」である。四肢骨の筋付着部の発達は極めて悪い。3号墓出土人骨の四肢骨は若い個体であるために筋肉付着面は発達せず、骨表面が滑らかである。当該遺跡から出土した人骨は形態的にやや現代人的である。推定身長は、1号人骨は152.8cm、3号人骨は約158cmである。

千葉県・滝台遺跡（梶ヶ山，n.d.b）

千葉県富里町所在の遺跡で、奈良・平安時代の遺構や遺物が多く出土する。人骨は江戸時代の土坑墓から出土し、副葬品としてキセルが発見されている。また、釘が検出されていることから、木棺に埋葬されていたと思われる。形態的な特徴から、熟年女性で、体格は小さいが、筋肉はそれなりに発達していたと考えられる。推定身長は140cm程度である。

品川区・池上本門寺近世大名家墓所（馬場・梶ヶ山，2002；Baba and Kajigayama，2002）

東京都品川区池上1-1所在の池上本門寺境内にある3つの墓、寛永2年（1705）没の円光院殿日仙栄壽大姉、寛永7年（1709）没の清高院殿妙秀日円大姉、享保6年（1721）没の高正院殿妙泉日流大姉の墓が発掘・調査され、保存状態が比較的良好だった高正院殿妙泉日流大姉の頭蓋と、清高院殿妙秀日円大姉ならびに高正院殿妙泉日流大姉の四肢骨の計測が行なわれた。

円光院殿日仙栄壽大姉は、米沢藩主五代将軍上杉綱憲の正室で、父は紀州徳川家二代目家貞である。火葬され青磁の壺に埋葬されていた。

清高院殿妙秀日円大姉は、熊本藩二代目細川越中守綱利および熊本新田藩初代若狭守利重の生母である。大型石室内の木棺に埋葬され、朱塗りの箱などが副葬品として発見された。推定身長は149.5cmである。

高正院殿妙泉日流大姉は、熊本新田藩初代若狭守利重の側室である。石室内に置かれた常滑焼の壺に埋葬されていた。脳頭蓋は、後面観では、頭蓋底部（両耳幅118.5mm）が頭頂部（頭蓋最大幅147mm）に比べはなはだ狭く、正五角形を呈する。つまり、筋肉の付着する頭蓋底に対して、脳を収容する頭頂部が大きい。これは第14代将軍徳川家茂夫人、仁孝天皇第8皇女（戒名、静寛院）の形態特徴（頭蓋最大幅144mm、両耳幅112mm）と類似する。顔面は非常に細長く、眼窩の高さが幅より大きい。このような特徴は、庶民にはもちろん、将軍家の正

室および側室にも見られない。四肢骨は、顔面ほど顕著ではないが、江戸時代庶民女性より細長い傾向を示す。四肢骨が細長いという特徴は、幼少時から栄養は良かったが、筋肉や骨を発達させるような負荷が少なかったと解釈される。一般に、将軍や大名およびその家族は、限られた上流階級集団の中で婚姻を繰り返し、軟らかい食物を摂取する生活習慣があったことが明らかになっている（鈴木，1967）。その結果、細長く極度に華奢な、いわゆる「将軍顔」が形成されたと考えられているが、高正院殿においては、今まで知られている将軍家の人々よりもそれらの傾向が進んでいる。推定身長は149.5 cmである。

なお、当該遺跡出土人骨の計測値は、御府内人骨の平均値の計算には使用していない。

品川区・池上本門寺奥絵師狩野家墓所（梶ヶ山・馬場, 2004b)

東京都品川区池上1-1の日蓮宗池上本門寺境内にある狩野家墓所発掘にともない、狩野常信（常心院法印古川道雲日観大居士）、狩野如川周信（晃曜院鸛雲日治大居士）、狩野晴川養信（晴川院殿會心齊法院養信日叡大居士）の3体の遺骸が出土した。

狩野常信は木挽町狩野家二代目で、狩野探幽の甥にあたる。1713年（正徳3）に78才で没している。人骨は石室内の漆喰の方形木棺から、座葬の状態で検出された。

狩野如川周信は木挽町狩野家三代目で、1728年（享保13年）に69歳で逝去している。方形木棺内に膝を曲げ、両脇に太刀を抱えた状態で埋葬され、その上に蓋として板石が使用されている。

狩野晴川養信は木挽町狩野家九代目で、1846年（弘化3年）に51歳で没する。発掘調査された3体のなかでは保存状態が比較的良好であり、ほぼ全身の骨が保存さ

れている。人骨は甕棺内に屈葬状態で埋葬されていた。表1・表3に示しているのはこの個体の計測値である。

養信の脳頭蓋は江戸時代男性平均より小さく、将軍平均より大きい。顔面は極めて細長く、将軍の平均値に匹敵する。眼窩は幅が狭く、眼窩は円形に近い。上顔高は江戸時代男性平均値と一致しているので、顔面の特徴として口から下の部分が長いといえる。いわゆるこの「将軍顔」は将軍や大名およびその家族だけではなく、「狩野家」という特殊な家系にも顕著に現れていることが窺える。特に、養信は木挽町狩野家九代目であり、その傾向が非常に強く現れているものと推測される。四肢骨も非常に細く華奢であり、江戸時代将軍の平均値とほぼ一致する。四肢骨が細いという特徴は、幼少期から筋肉や骨を発達させるような負荷が少なかったことによる、と解釈され、これも狩野家という特殊な家系の生活ぶりを表しているものと思われる。ただし、二代目常信においては、骨体は細いが上腕骨や大腿骨に付着する筋肉の発達が良好であったことが窺え、成長後の負荷が多かったという可能性がある。

なお、養信の計測値は、御府内人骨の平均値の計算には使用していない。

結果および考察

本資料報告の目的は、ともすれば失われがちな少数出土人骨のデータをお互いに利用しやすい形で公表することであったが、今回寄せ集められた人骨（表1～表4）のおおよその性格を知っておくために行なった分析で、若干興味深い結果を得たので、それを以下に記しておく。

まず、頭蓋7計測項目について、今回報告している人骨のうち、江戸御府内出土のもののみを混合した標本における平均値、ならびに他の中世・近世・現代日本人標

表5 男性頭蓋計測値の平均値に基づく中世・近世・現代日本人の比較¹⁾

計測項目 ²⁾	材木座 (神奈川, 1333年) ³⁾	南関東 (15-16世紀) ⁴⁾	吉母浜 (山口, 14-16世紀) ⁵⁾	東北北部 (近世) ⁶⁾
1 頭蓋最大長	184.2 (170)	183.6 (67)	181.8 (16)	182.2 (25)
8 頭蓋最大幅	136.5 (164)	138.7 (66)	136.2 (17)	140.9 (28)
17 バジオン・ブレグマ高	137.2 (96)	136.6 (49)	139.4 (17)	132.0 (22)
45 頬弓幅	134.8 (96)	136.2 (38)	135.2 (18)	134.5 (14)
48 上顔高	64.7 (119)	68.7 (44)	69.9 (15)	70.5 (24)
54 鼻幅	26.6 (122)	26.2 (51)	26.0 (17)	25.9 (23)
55 鼻高	51.1 (121)	51.7 (48)	51.4 (16)	51.3 (24)

¹⁾ 括弧内は個体数。

²⁾ 数字はマルチンの項目番号 (Martin und Saller, 1957)。

³⁾ 鈴木ほか (1956)。

⁴⁾ Suzuki (1956, 1969)。

⁵⁾ 中橋・永井 (1985)。

⁶⁾ 川久保 (2001)。

表5 (つづき—2)

計測項目 ²⁾	御府内 (近世) ⁷⁾	池之端七軒町 1 (東京, 近世) ⁸⁾	池之端七軒町 2 (東京, 近世) ⁶⁾	南関東 (18–19 世紀) ⁴⁾
1 頭蓋最大長	181.4 (46)	182.3 (29)	181.7 (77)	181.9 (165)
8 頭蓋最大幅	137.5 (46)	140.0 (30)	139.9 (75)	139.8 (161)
17 バジオン・プレグマ高	136.4 (45)	137.7 (27)	137.0 (75)	137.5 (140)
45 頬弓幅	130.0 (45)	135.6 (25)	136.0 (65)	135.4 (109)
48 上顔高	70.6 (43)	72.5 (25)	71.8 (68)	69.3 (102)
54 鼻幅	25.9 (44)	25.9 (29)	26.4 (77)	26.2 (120)
55 鼻高	51.6 (44)	52.6 (29)*	52.0 (75)	52.5 (120)

⁷⁾ 本集計。⁸⁾ 溝口 (1997)。

* Howells (1973) による計測 (NLH)。

表5 (つづき—3)

計測項目 ²⁾	一橋高校 (東京, 江戸前・中期) ⁹⁾	湯島無縁坂 (東京, 17–18 世紀) ¹⁰⁾	上車坂〔庶民〕 (東京, 17 世紀) ¹¹⁾	芝公園〔武家〕 (東京, 江戸前期) ¹¹⁾
1 頭蓋最大長	182.8 (70)	183.5 (92)	183.4 (152)	182.7 (25)
8 頭蓋最大幅	139.3 (67)	141.1 (92)	140.3 (149)	140.8 (26)
17 バジオン・プレグマ高	137.5 (60)	138.5 (91)	136.6 (150)	136.8 (15)
45 頬弓幅	134.5 (45)	136.4 (81)	136.0 (110)	134.2 (18)
48 上顔高	68.4 (54)	71.8 (65)	71.3 (107)	67.9 (17)
54 鼻幅	25.7 (61)	25.1 (93)	25.3 (128)	25.5 (15)
55 鼻高	52.1 (61)	53.6 (93)	51.9 (128)	51.4 (16)

⁹⁾ 森本ほか (1985)。¹⁰⁾ 森田・河越 (1960)。¹¹⁾ 加藤 (1991)。

表5 (つづき—4)

計測項目 ²⁾	天徳寺〔武士〕 (東京, 江戸中・後期) ¹¹⁾	牧野家〔藩主〕 (東京, 江戸中・後期) ¹¹⁾	徳川将軍 (近世) ¹²⁾	愛知 (1700–1850 年) ¹³⁾
1 頭蓋最大長	181.8 (53)	174.8 (9)	168.8 (5)	180.3 (25)
8 頭蓋最大幅	141.3 (54)	141.5 (8)	147.2 (5)	140.2 (15)
17 バジオン・プレグマ高	137.3 (47)	137.7 (9)	143.0 (5)	135.7 (10)
45 頬弓幅	134.7 (46)	129.3 (7)	132.9 (5)	133.6 (10)
48 上顔高	71.4 (34)	73.0 (5)	81.0 (5)	71.9 (8)
54 鼻幅	25.4 (44)	22.9 (9)	24.6 (5)	26.0 (15)
55 鼻高	52.6 (42)	54.3 (9)	59.6 (5)	50.9 (16)

¹²⁾ 鈴木 (1967) に基づいて計算。¹³⁾ Nagaoka (2003)。

表5 (つづき—5)

計測項目 ²⁾	大阪 1 (1770–1830 年) ¹⁴⁾	大阪 2 (1750–1850 年) ¹³⁾	天福寺 (福岡, 18–19 世紀) ¹⁵⁾	北海道アイヌ (現代) ¹⁶⁾
1 頭蓋最大長	178.1 (31)	178.2 (31)	182.6 (38)	185.9 (87)
8 頭蓋最大幅	140.6 (31)	139.5 (31)	138.6 (38)	141.3 (87)
17 バジオン・プレグマ高	138.3 (25)	138.3 (24)	139.2 (33)	139.5 (87)
45 頬弓幅	132.8 (11)	131.6 (13)	136.4 (25)	137.3 (74)
48 上顔高	68.4 (12)	70.4 (12)	74.5 (18)	69.7 (71)
54 鼻幅	26.7 (23)	26.8 (24)	26.5 (24)	25.7 (77)
55 鼻高	52.0 (25)	51.8 (25)	52.9 (24)	50.5 (79)

¹⁴⁾ 欠田 (1959)。¹⁵⁾ 九大・医・解剖 (1988)。¹⁶⁾ 小金井 (平井, 1927)。

表5 (つづき—6)

計測項目 ²⁾	東北 (現代) ¹⁷⁾	関東 (現代) ¹⁸⁾	北陸 (現代) ¹⁹⁾	畿内 (現代) ²⁰⁾
1 頭蓋最大長	181.2 (61)	178.9 (143)	180.6 (188)	178.3 (30)
8 頭蓋最大幅	139.5 (60)	140.3 (143)	140.0 (189)	141.2 (30)
17 バジオン・ブレグマ高	136.3 (60)	138.1 (143)	135.0 (187)	139.7 (30)
45 頬弓幅	133.4 (52)	132.9 (144)	134.3 (186)	133.5 (30)
48 上顔高	69.0 (58)	70.7 (144)	69.2 (173)	72.9 (29)
54 鼻幅	25.7 (64)	25.0 (144)	25.3 (196)	26.4 (30)
55 鼻高	52.0 (63)	52.0 (143)	50.4 (196)	52.4 (30)

¹⁷⁾山崎ほか (1967)。¹⁸⁾森田 (1950)。¹⁹⁾大槻・中野 (阮, 1960)。²⁰⁾宮本 (1924)。

表5 (つづき—7)

計測項目 ²⁾	中国 (現代) ²¹⁾	九州 (現代) ²²⁾	沖縄本島 (現代) ²³⁾
1 頭蓋最大長	179.9 (45)	182.6 (175)	179.1 (44)
8 頭蓋最大幅	140.7 (45)	139.9 (175)	140.3 (44)
17 バジオン・ブレグマ高	139.8 (45)	141.1 (135)	137.9 (28)
45 頬弓幅	135.3 (47)	134.4 (136)	134.3 (35)
48 上顔高	72.4 (40)	70.2 (136)	65.9 (26)
54 鼻幅	25.6 (49)	25.6 (136)	25.6 (44)
55 鼻高	51.4 (49)	52.4 (136)	49.7 (34)

²¹⁾足立 (阮, 1960)。²²⁾原 (金関ほか, 1955 ; 阮, 1960)。²³⁾許 (1948)。表6 女性頭蓋計測値の平均値に基づく中世・近世・現代日本人の比較¹⁾

計測項目 ²⁾	材木座 (神奈川, 1333年) ³⁾	吉母浜 (山口, 14-16世紀) ⁴⁾	御府内 (近世) ⁵⁾	池之端七軒町 (東京, 近世) ⁶⁾
1 頭蓋最大長	177.9 (62)	176.4 (26)	174.5 (16)	170.3 (10)
8 頭蓋最大幅	131.8 (60)	132.0 (26)	134.4 (17)	134.7 (10)
17 バジオン・ブレグマ高	128.8 (42)	133.0 (25)	132.7 (15)	132.5 (10)
45 頬弓幅	124.6 (33)	128.3 (26)	123.1 (14)	126.3 (6)
48 上顔高	61.6 (40)	65.5 (19)	67.0 (14)	68.6 (8)
54 鼻幅	24.6 (34)	25.9 (25)	26.8 (16)	25.8 (8)
55 鼻高	46.9 (34)	48.6 (25)	45.8 (15)	49.9 (8)*

¹⁾括弧内は個体数。²⁾数字はマルチンの項目番号 (Martin und Saller, 1957)。³⁾鈴木ほか (1956)。⁴⁾中橋・永井 (1985)。⁵⁾本集計。⁶⁾溝口 (1997)。

* Howells (1973) による計測 (NLH)。

表6 (つづき-2)

計測項目 ²⁾	一橋高校 (東京, 江戸前・中期) ⁷⁾	湯島無縁坂 (東京, 17-18世紀) ⁸⁾	上車坂〔庶民〕 (東京, 17世紀) ⁹⁾	芝公園〔武家〕 (東京, 江戸前期) ⁹⁾
1 頭蓋最大長	175.8 (24)	173.2 (60)	178.3 (65)	175.5 (34)
8 頭蓋最大幅	137.0 (22)	136.8 (60)	139.6 (65)	136.0 (34)
17 バジオン・ブレグマ高	132.0 (20)	134.1 (59)	135.2 (65)	133.3 (27)
45 頬弓幅	126.3 (12)	125.9 (44)	131.8 (45)	127.0 (25)
48 上顔高	64.4 (16)	68.3 (38)	68.9 (49)	64.9 (21)
54 鼻幅	25.1 (18)	24.6 (52)	24.8 (61)	24.7 (23)
55 鼻高	48.5 (19)	50.4 (52)	50.2 (62)	48.3 (23)

⁷⁾ 森本ほか (1985)。⁸⁾ 森田・河越 (1960)。⁹⁾ 加藤 (1991)。

表6 (つづき-3)

計測項目 ²⁾	天徳寺〔武士〕 (東京, 江戸中・後期) ⁹⁾	徳川将軍正室・側室 (近世) ¹⁰⁾	天福寺 (福岡, 18-19世紀) ¹¹⁾	北海道アイヌ (現代) ¹²⁾
1 頭蓋最大長	171.3 (40)	171.4 (9)	174.7 (38)	177.2 (63)
8 頭蓋最大幅	136.9 (39)	140.2 (9)	133.5 (38)	136.9 (64)
17 バジオン・ブレグマ高	133.0 (35)	135.0 (9)	132.7 (35)	134.9 (63)
45 頬弓幅	125.2 (31)	122.7 (9)	126.5 (30)	130.1 (44)
48 上顔高	66.0 (24)	68.2 (9)	68.8 (22)	65.6 (41)
54 鼻幅	24.7 (29)	24.8 (9)	25.3 (26)	24.8 (46)
55 鼻高	48.6 (30)	51.6 (9)	49.9 (28)	47.4 (48)

¹⁰⁾ 鈴木 (1967) に基づいて計算。¹¹⁾ 九大・医・解剖 (1988)。¹²⁾ 小金井 (平井, 1927)。

表6 (つづき-4)

計測項目 ²⁾	東北 (現代) ¹³⁾	関東 (現代) ¹⁴⁾	北陸 (現代) ¹⁵⁾	畿内 (現代) ¹⁶⁾
1 頭蓋最大長	173.1 (21)	170.8 (82)	172.1 (25)	169.3 (20)
8 頭蓋最大幅	134.3 (21)	135.9 (82)	134.3 (25)	137.7 (20)
17 バジオン・ブレグマ高	130.3 (21)	132.5 (81)	125.9 (25)	132.5 (20)
45 頬弓幅	125.5 (20)	124.9 (84)	122.9 (25)	125.8 (20)
48 上顔高	65.4 (22)	67.1 (83)	64.5 (25)	68.3 (20)
54 鼻幅	24.9 (23)	24.5 (84)	24.3 (25)	25.1 (20)
55 鼻高	49.5 (23)	49.0 (84)	48.5 (25)	48.6 (20)

¹³⁾ 山崎ほか (1967)。¹⁴⁾ 森田 (1950)。¹⁵⁾ 宮崎 (欠田, 1959)。¹⁶⁾ 宮本 (1924)。

表6 (つづき-5)

計測項目 ²⁾	中国 (現代) ¹⁷⁾	九州 (現代) ¹⁸⁾	沖縄本島 (現代) ¹⁹⁾
1 頭蓋最大長	171.3 (27)	176.4 (32)	171.9 (29)
8 頭蓋最大幅	136.6 (27)	136.0 (32)	136.0 (28)
17 バジオン・ブレグマ高	133.2 (27)	132.9 (32)	130.8 (17)
45 頬弓幅	125.5 (23)	124.4 (36)	127.3 (11)
48 上顔高	68.5 (20)	66.6 (36)	66.2 (10)
54 鼻幅	25.4 (27)	25.0 (36)	24.5 (26)
55 鼻高	47.7 (27)	49.6 (36)	46.4 (18)

¹⁷⁾ 足立 (宮本, 1924 ; 大場, 1973)。¹⁸⁾ 原 (宮本, 1924 ; 大場, 1973)。¹⁹⁾ 許 (1948)。

本における平均値を、男女別に表5と表6に示す。これらの平均値と現代日本人における平均的な標準偏差（埴原，1981，1983）を使って、御府内出土人骨を基準にした時の各比較標本の正規偏差（表7と表8）を計算した

結果、ほとんど全ての項目で御府内出土人骨に似ているような他の江戸時代人集団はない、ということが示された。しかし、興味深いことに、たまたま寄せ集められた御府内出土人骨混合標本は、男女ともに、頬弓幅が非常

表7 男性頭蓋計測値における中世・近世・現代日本人の御府内江戸時代人からの正規偏差¹⁾

計測項目 ²⁾	標準偏差 ³⁾	材木座 (神奈川, 1333 年)	南関東 (15-16 世紀)	吉母浜 (山口, 14-16 世紀)	東北北部 (近世)
1 頭蓋最大長	6.3	0.44 (184.2)	0.35 (183.6)	0.06 (181.8)	0.13 (182.2)
8 頭蓋最大幅	5.5	-0.18 (136.5)	0.22 (138.7)	-0.24 (136.2)	0.62 (140.9)
17 バジオン・プレグマ高	5.7	0.14 (137.2)	0.04 (136.6)	0.53 (139.4)	-0.77 (132.0)
45 頬弓幅	5.6	0.86 (134.8)	1.11 (136.2)	0.93 (135.2)	0.80 (134.5)
48 上顔高	4.2	-1.40 (64.7)	-0.45 (68.7)	-0.17 (69.9)	-0.02 (70.5)
54 鼻幅	2.4	0.29 (26.6)	0.13 (26.2)	0.04 (26.0)	0.00 (25.9)
55 鼻高	3.6	-0.14 (51.1)	0.03 (51.7)	-0.06 (51.4)	-0.08 (51.3)

¹⁾ 比較標本の出典は表5参照。括弧内は元になった平均値。

²⁾ 数字はマルチンの項目番号 (Martin und Saller, 1957)。

³⁾ 埴原 (1981) が現代日本人男性 12 集団から求めた分散の自由度による重み付き平均の平方根 (総個体数=476)。ただし、鼻高の標準偏差は Howells (1973) による NLH のもの。

表7 (つづき-2)

計測項目 ²⁾	御府内 (近世)	池之端七軒町 1 (東京, 近世)	池之端七軒町 2 (東京, 近世)	南関東 (18-19 世紀)
1 頭蓋最大長	0.00 (181.4)	0.14 (182.3)	0.05 (181.7)	0.08 (181.9)
8 頭蓋最大幅	0.00 (137.5)	0.45 (140.0)	0.44 (139.9)	0.42 (139.8)
17 バジオン・プレグマ高	0.00 (136.4)	0.23 (137.7)	0.11 (137.0)	0.19 (137.5)
45 頬弓幅	0.00 (130.0)	1.00 (135.6)	1.07 (136.0)	0.96 (135.4)
48 上顔高	0.00 (70.6)	0.45 (72.5)	0.29 (71.8)	-0.31 (69.3)
54 鼻幅	0.00 (25.9)	0.00 (25.9)	0.21 (26.4)	0.13 (26.2)
55 鼻高	0.00 (51.6)	0.28 (52.6)	0.11 (52.0)	0.25 (52.5)

表7 (つづき-3)

計測項目 ²⁾	一橋高校 (東京, 江戸前・中期)	湯島無縁坂 (東京, 17-18 世紀)	上車坂 [庶民] (東京, 17 世紀)	芝公園 [武家] (東京, 江戸前期)
1 頭蓋最大長	0.22 (182.8)	0.33 (183.5)	0.32 (183.4)	0.21 (182.7)
8 頭蓋最大幅	0.33 (139.3)	0.65 (141.1)	0.51 (140.3)	0.60 (140.8)
17 バジオン・プレグマ高	0.19 (137.5)	0.37 (138.5)	0.04 (136.6)	0.07 (136.8)
45 頬弓幅	0.80 (134.5)	1.14 (136.4)	1.07 (136.0)	0.75 (134.2)
48 上顔高	-0.52 (68.4)	0.29 (71.8)	0.17 (71.3)	-0.64 (67.9)
54 鼻幅	-0.08 (25.7)	-0.33 (25.1)	-0.25 (25.3)	-0.17 (25.5)
55 鼻高	0.14 (52.1)	0.56 (53.6)	0.08 (51.9)	-0.06 (51.4)

表7 (つづき-4)

計測項目 ²⁾	天徳寺 [武士] (東京, 江戸中・後期)	牧野家 [藩主] (東京, 江戸中・後期)	徳川将軍 (近世)	愛知 (1700-1850 年)
1 頭蓋最大長	0.06 (181.8)	-1.05 (174.8)	-2.00 (168.8)	-0.17 (180.3)
8 頭蓋最大幅	0.69 (141.3)	0.73 (141.5)	1.76 (147.2)	0.49 (140.2)
17 バジオン・プレグマ高	0.16 (137.3)	0.23 (137.7)	1.16 (143.0)	-0.12 (135.7)
45 頬弓幅	0.84 (134.7)	-0.12 (129.3)	0.52 (132.9)	0.64 (133.6)
48 上顔高	0.19 (71.4)	0.57 (73.0)	2.48 (81.0)	0.31 (71.9)
54 鼻幅	-0.21 (25.4)	-1.25 (22.9)	-0.54 (24.6)	0.04 (26.0)
55 鼻高	0.28 (52.6)	0.75 (54.3)	2.22 (59.6)	-0.19 (50.9)

表7 (つづき-5)

計測項目 ²⁾		大阪1 (1770-1830年)	大阪2 (1750-1850年)	天福寺 (福岡, 18-19世紀)	北海道アイヌ (現代)
1	頭蓋最大長	-0.52 (178.1)	-0.51 (178.2)	0.19 (182.6)	0.71 (185.9)
8	頭蓋最大幅	0.56 (140.6)	0.36 (139.5)	0.20 (138.6)	0.69 (141.3)
17	バジオン・プレグマ高	0.33 (138.3)	0.33 (138.3)	0.49 (139.2)	0.54 (139.5)
45	頬弓幅	0.50 (132.8)	0.29 (131.6)	1.14 (136.4)	1.30 (137.3)
48	上顔高	-0.52 (68.4)	-0.05 (70.4)	0.93 (74.5)	-0.21 (69.7)
54	鼻幅	0.33 (26.7)	0.38 (26.8)	0.25 (26.5)	-0.08 (25.7)
55	鼻高	0.11 (52.0)	0.06 (51.8)	0.36 (52.9)	-0.31 (50.5)

表7 (つづき-6)

計測項目 ²⁾		東北 (現代)	関東 (現代)	北陸 (現代)	畿内 (現代)
1	頭蓋最大長	-0.03 (181.2)	-0.40 (178.9)	-0.13 (180.6)	-0.49 (178.3)
8	頭蓋最大幅	0.36 (139.5)	0.51 (140.3)	0.45 (140.0)	0.67 (141.2)
17	バジオン・プレグマ高	-0.02 (136.3)	0.30 (138.1)	-0.25 (135.0)	0.58 (139.7)
45	頬弓幅	0.61 (133.4)	0.52 (132.9)	0.77 (134.3)	0.63 (133.5)
48	上顔高	-0.38 (69.0)	0.02 (70.7)	-0.33 (69.2)	0.55 (72.9)
54	鼻幅	-0.08 (25.7)	-0.37 (25.0)	-0.25 (25.3)	0.21 (26.4)
55	鼻高	0.11 (52.0)	0.11 (52.0)	-0.33 (50.4)	0.22 (52.4)

表7 (つづき-7)

計測項目 ²⁾		中国 (現代)	九州 (現代)	沖縄本島 (現代)
1	頭蓋最大長	-0.24 (179.9)	0.19 (182.6)	-0.37 (179.1)
8	頭蓋最大幅	0.58 (140.7)	0.44 (139.9)	0.51 (140.3)
17	バジオン・プレグマ高	0.60 (139.8)	0.82 (141.1)	0.26 (137.9)
45	頬弓幅	0.95 (135.3)	0.79 (134.4)	0.77 (134.3)
48	上顔高	0.43 (72.4)	-0.10 (70.2)	-1.12 (65.9)
54	鼻幅	-0.12 (25.6)	-0.12 (25.6)	-0.12 (25.6)
55	鼻高	-0.06 (51.4)	0.22 (52.4)	-0.53 (49.7)

表8 女性頭蓋計測値における中世・近世・現代日本人の御府内江戸時代人からの正規偏差¹⁾

計測項目 ²⁾		標準偏差 ³⁾	材木座 (神奈川, 1333年)	吉母浜 (山口, 14-16世紀)	御府内 (近世)	池之端七軒町 (東京, 近世)
1	頭蓋最大長	6.4	0.53 (177.9)	0.30 (176.4)	0.00 (174.5)	-0.66 (170.3)
8	頭蓋最大幅	5.1	-0.51 (131.8)	-0.47 (132.0)	0.00 (134.4)	0.06 (134.7)
17	バジオン・プレグマ高	5.3	-0.74 (128.8)	0.06 (133.0)	0.00 (132.7)	-0.04 (132.5)
45	頬弓幅	4.8	0.31 (124.6)	1.08 (128.3)	0.00 (123.1)	0.67 (126.3)
48	上顔高	4.0	-1.35 (61.6)	-0.38 (65.5)	0.00 (67.0)	0.40 (68.6)
54	鼻幅	2.3	-0.96 (24.6)	-0.39 (25.9)	0.00 (26.8)	-0.43 (25.8)
55	鼻高	2.9	0.38 (46.9)	0.97 (48.6)	0.00 (45.8)	1.41 (49.9)

¹⁾ 比較標本の出典は表6参照。括弧内は元になった平均値。²⁾ 数字はマルチンの項目番号 (Martin und Saller, 1957)。³⁾ 埴原 (1983) が現代日本人女性5集団から求めた分散の自由度による重み付き平均の平方根 (総個体数=196)。ただし、鼻高の標準偏差はHowells (1973) によるNLHのもの。

表 8 (つづき—2)

計測項目 ²⁾		一橋高校 (東京, 江戸前・中期)	湯島無縁坂 (東京, 17-18 世紀)	上車坂〔庶民〕 (東京, 17 世紀)	芝公園〔武家〕 (東京, 江戸前期)
1	頭蓋最大長	0.20 (175.8)	-0.20 (173.2)	0.59 (178.3)	0.16 (175.5)
8	頭蓋最大幅	0.51 (137.0)	0.47 (136.8)	1.02 (139.6)	0.31 (136.0)
17	バジオン・プレグマ高	-0.13 (132.0)	0.26 (134.1)	0.47 (135.2)	0.11 (133.3)
45	頬弓幅	0.67 (126.3)	0.58 (125.9)	1.81 (131.8)	0.81 (127.0)
48	上顔高	-0.65 (64.4)	0.32 (68.3)	0.48 (68.9)	-0.52 (64.9)
54	鼻幅	-0.74 (25.1)	-0.96 (24.6)	-0.87 (24.8)	-0.91 (24.7)
55	鼻高	0.93 (48.5)	1.59 (50.4)	1.52 (50.2)	0.86 (48.3)

表 8 (つづき—3)

計測項目 ²⁾		天徳寺〔武士〕 (東京, 江戸中・後期)	徳川将軍正室・側室 (近世)	天福寺 (福岡, 18-19 世紀)	北海道アイヌ (現代)
1	頭蓋最大長	-0.50 (171.3)	-0.48 (171.4)	0.03 (174.7)	0.42 (177.2)
8	頭蓋最大幅	0.49 (136.9)	1.14 (140.2)	-0.18 (133.5)	0.49 (136.9)
17	バジオン・プレグマ高	0.06 (133.0)	0.43 (135.0)	0.00 (132.7)	0.42 (134.9)
45	頬弓幅	0.44 (125.2)	-0.08 (122.7)	0.71 (126.5)	1.46 (130.1)
48	上顔高	-0.25 (66.0)	0.30 (68.2)	0.45 (68.8)	-0.35 (65.6)
54	鼻幅	-0.91 (24.7)	-0.87 (24.8)	-0.65 (25.3)	-0.87 (24.8)
55	鼻高	0.97 (48.6)	2.00 (51.6)	1.41 (49.9)	0.55 (47.4)

表 8 (つづき—4)

計測項目 ²⁾		東北 (現代)	関東 (現代)	北陸 (現代)	畿内 (現代)
1	頭蓋最大長	-0.22 (173.1)	-0.58 (170.8)	-0.38 (172.1)	-0.81 (169.3)
8	頭蓋最大幅	-0.02 (134.3)	0.29 (135.9)	-0.02 (134.3)	0.65 (137.7)
17	バジオン・プレグマ高	-0.45 (130.3)	-0.04 (132.5)	-1.28 (125.9)	-0.04 (132.5)
45	頬弓幅	0.50 (125.5)	0.38 (124.9)	-0.04 (122.9)	0.56 (125.8)
48	上顔高	-0.40 (65.4)	0.02 (67.1)	-0.63 (64.5)	0.32 (68.3)
54	鼻幅	-0.83 (24.9)	-1.00 (24.5)	-1.09 (24.3)	-0.74 (25.1)
55	鼻高	1.28 (49.5)	1.10 (49.0)	0.93 (48.5)	0.97 (48.6)

表 8 (つづき—5)

計測項目 ²⁾		中国 (現代)	九州 (現代)	沖縄本島 (現代)
1	頭蓋最大長	-0.50 (171.3)	0.30 (176.4)	-0.41 (171.9)
8	頭蓋最大幅	0.43 (136.6)	0.31 (136.0)	0.31 (136.0)
17	バジオン・プレグマ高	0.09 (133.2)	0.04 (132.9)	-0.36 (130.8)
45	頬弓幅	0.50 (125.5)	0.27 (124.4)	0.88 (127.3)
48	上顔高	0.38 (68.5)	-0.10 (66.6)	-0.20 (66.2)
54	鼻幅	-0.61 (25.4)	-0.78 (25.0)	-1.00 (24.5)
55	鼻高	0.66 (47.7)	1.31 (49.6)	0.21 (46.4)

に狭い、ということが明らかにされた。男性は牧野家藩主の平均値に最も近く（表7）、女性は北陸現代人や徳川将軍正室・側室の平均値に非常に近い（表8）。御府内出土人骨の混合標本には狩野養信（梶ヶ山・馬場、2004b）や高正院殿（馬場・梶ヶ山、2002）のような個体は含まなかったが、この結果は、彼ら以外にも、この混合標本の中に富裕階層の人骨が多数含まれていることを示唆するものかもしれない。

さらに、同じ頭蓋7計測項目に基づくマハラノビスの D^2 距離によって、総合的に御府内出土人骨がどの比較標本にもっとも類似しているのかを検討した。このとき基準に使った現代日本人の平均的な群内分散共分散行列も埴原（1981, 1983）によって計算されたものである（表9, 表10）。結果として得られたマハラノビスの D^2 距離は表11と表12に示した。これらの結果からも、今回の御府内出土人骨の混合標本は比較した他の御府内出土江戸時代人標本とはあまり似ていないことが示される。最もよく似ていたのは、男性の場合は東北地方現代人、女性の場合は中国地方現代人であった。もちろん、今回計算した D^2 距離は完全なデータセットに基づくものではないため信頼性はやや落ちる可能性があるが、それを考慮しても、男女とも、最もよく似ている集団が、

比較したたくさんの江戸時代人標本のうちの一つではなく、現代人であったということは、偶然集められた今回の人骨群はかなり現代的な特徴をもっていた、ということを示唆するものである。つまり、これは、御府内の江戸時代人には非常に大きな変異があることを示唆するものである。

以上のような御府内江戸時代人の大きな変異は、社会的・経済的な階級差、出身地の地理的変異、あるいは江戸時代内の継時的变化に関係するものなのか。その原因や現代日本人の形成過程を明らかにするには、今後も引き続き、人骨と環境要因に関する遺跡別データの収集が必要である。

引用文献

- 馬場悠男・梶ヶ山真里（1992）沢田遺跡出土人骨について、沢田遺跡（茨城県教育財団文化財調査報告第77集「常陸那珂港関係埋蔵文化財調査報告書2」）、茨城県教育財団、茨城、pp.535-556。
 馬場悠男・梶ヶ山真里（2002）被葬者の人類学的所見。坂詰秀一編、池上本門寺近世大名家墓所の調査、日蓮宗大本山池上本門寺、東京、pp.207-219。
 Baba H. and Kajigayama M. (2002) Early modern aristocrat female skeletons unearthed from Ikegami-Honmonji Temple, Tokyo. Bulletin of the National Science Museum, Tokyo, Series D, 28: 15-26.

表9 現代日本人男性頭蓋計測値の群内分散共分散行列¹⁾

計測項目 ²⁾	1	8	17	45	48	54	NLH*
1 頭蓋最大長	39.9306						
8 頭蓋最大幅	0.5709	30.4435					
17 バジオン・プレグマ高	9.7691	7.3533	32.2761				
45 頬弓幅	10.9505	12.6055	9.3905	31.6512			
48 上顔高	7.9831	2.8563	3.1662	5.1756	17.4798		
54 鼻幅	3.9651	1.3953	0.9937	3.8812	1.8718	5.5283	
NLH 鼻高*	4.1142	2.8840	2.4182	4.5637	7.7841	1.0558	12.7132

¹⁾ 埴原（1981）が現代日本人男性12集団から求めた分散・共分散の自由度による重み付き平均（総個体数=476）。

²⁾ 数字はマルチンの項目番号（Martin und Saller, 1957）。

* Howells（1973）による計測。

表10 現代日本人女性頭蓋計測値の群内分散共分散行列¹⁾

計測項目 ²⁾	1	8	17	45	48	54	NLH*
1 頭蓋最大長	41.5152						
8 頭蓋最大幅	5.9729	26.4533					
17 バジオン・プレグマ高	10.3767	8.8741	28.4233				
45 頬弓幅	12.4748	10.6659	6.6289	23.0655			
48 上顔高	8.6442	2.1771	7.9559	6.2223	16.2943		
54 鼻幅	4.4258	1.4052	0.5072	3.9105	2.0728	5.4341	
NLH 鼻高*	4.2948	1.7394	4.0664	4.8264	8.3793	1.2643	8.5859

¹⁾ 埴原（1983）が現代日本人女性5集団から求めた分散・共分散の自由度による重み付き平均（総個体数=196）。

²⁾ 数字はマルチンの項目番号（Martin und Saller, 1957）。

* Howells（1973）による計測。

表 11 男性頭蓋計測値 7 項目に基づく中世・近世・現代日本人の間のマハラノビスの D^2 距離

		1	2	3	4	5	6	7	8	9
1	材木座									
2	南関東 (15-16 世紀)	1.47								
3	吉母浜	2.98	1.04							
4	東北北部 (近世)	5.04	1.55	3.51						
5	御府内	4.34	1.92	1.70	2.14					
6	池之端七軒町 1	5.14	1.28	1.14	1.52	1.20				
7	池之端七軒町 2	4.58	1.01	1.02	1.28	1.30	0.13			
8	南関東 (18-19 世紀)	2.07	0.28	0.95	1.69	1.34	0.85	0.70		
9	一橋高校	1.53	0.26	1.19	1.87	1.39	1.31	1.26	0.16	
10	湯島無縁坂	4.58	1.20	1.70	1.91	1.96	0.47	0.86	0.81	0.95
11	上車坂〔庶民〕	4.37	0.84	1.53	0.91	1.65	0.34	0.46	0.85	0.97
12	芝公園〔武家〕	1.95	0.52	2.00	1.46	1.62	1.63	1.54	0.45	0.18
13	天徳寺〔武士〕	4.67	1.18	1.67	1.18	1.10	0.25	0.45	0.64	0.88
14	牧野家〔藩主〕	12.76	7.70	6.57	6.59	4.22	4.14	5.13	5.66	6.03
15	徳川将軍	34.77	25.55	21.71	23.54	19.45	16.95	18.32	21.08	23.41
16	愛知 (1700-1850 年)	6.17	2.01	1.96	1.12	1.03	0.49	0.39	1.55	2.06
17	大阪 1 (1770-1830 年)	3.34	1.92	1.98	3.31	1.49	2.07	1.76	0.90	1.28
18	大阪 2 (1750-1850 年)	5.11	2.63	1.84	3.37	0.85	1.57	1.39	1.48	2.05
19	天福寺	7.37	2.77	1.43	3.36	2.18	0.54	0.70	2.24	3.07
20	北海道アイヌ	3.45	0.96	1.82	2.18	2.69	1.41	1.41	1.29	1.13
21	東北	2.38	0.50	1.29	1.28	0.81	0.92	0.85	0.17	0.18
22	関東	5.17	1.88	1.45	2.25	0.93	0.62	0.82	0.99	1.27
23	北陸	3.66	0.80	1.65	0.64	1.41	0.87	0.67	0.78	0.87
24	畿内	7.91	3.70	2.35	3.84	1.70	1.16	1.25	2.31	3.19
25	中国	6.94	2.61	1.44	3.02	1.87	0.54	0.67	1.83	2.46
26	九州	3.41	1.28	0.87	3.27	1.25	0.93	1.17	0.66	0.70
27	沖縄本島	1.97	1.16	1.84	2.98	2.53	2.63	2.18	0.98	0.87

表 11 (つづき-2)

		10	11	12	13	14	15	16	17	18
11	上車坂〔庶民〕	0.36								
12	芝公園〔武家〕	1.18	1.00							
13	天徳寺〔武士〕	0.28	0.29	0.90						
14	牧野家〔藩主〕	4.02	5.05	6.15	3.41					
15	徳川将軍	17.96	20.63	24.31	17.17	8.48				
16	愛知 (1700-1850 年)	1.59	0.83	2.02	0.65	4.31	17.56			
17	大阪 1 (1770-1830 年)	2.56	2.74	1.51	1.68	5.14	18.35	2.12		
18	大阪 2 (1750-1850 年)	2.71	2.67	2.41	1.59	4.27	15.90	1.31	0.46	
19	天福寺	1.66	1.52	3.82	1.49	5.26	15.62	1.18	3.43	2.19
20	北海道アイヌ	1.21	0.75	0.99	1.27	7.91	25.64	2.05	3.24	3.61
21	東北	0.92	0.80	0.28	0.50	4.78	20.99	1.24	0.89	1.33
22	関東	0.92	1.03	1.43	0.38	2.34	15.12	0.78	1.17	0.90
23	北陸	1.19	0.44	0.68	0.59	5.28	22.05	0.68	1.91	2.08
24	畿内	2.36	2.49	3.55	1.45	3.14	11.81	1.07	1.63	0.64
25	中国	1.40	1.24	2.74	0.91	3.68	14.69	0.70	2.26	1.44
26	九州	0.81	1.24	1.10	0.78	4.43	18.62	1.84	1.25	1.37
27	沖縄本島	2.61	2.25	0.77	2.02	7.17	24.92	2.67	1.11	2.20

表 11 (つづき—3)

		19	20	21	22	23	24	25	26
20	北海道アイヌ	2.80							
21	東北	2.58	1.47						
22	関東	1.65	2.13	0.73					
23	北陸	2.46	1.13	0.50	0.93				
24	畿内	1.20	3.76	2.29	0.82	2.54			
25	中国	0.70	2.07	1.90	0.60	1.52	0.55		
26	九州	1.88	1.29	0.79	0.67	1.57	1.66	1.18	
27	沖縄本島	4.63	1.81	0.96	1.77	1.16	3.58	2.81	1.55

表 12 女性頭蓋計測値 7 項目に基づく中世・近世・現代日本人の間のマハラノビスの D^2 距離

		1	2	3	4	5	6	7	8	9
1	材木座									
2	吉母浜	2.52								
3	御府内	8.44	5.86							
4	池之端七軒町	7.51	3.16	4.09						
5	一橋高校	2.01	2.14	5.65	3.20					
6	湯島無縁坂	5.88	3.40	5.36	1.05	1.64				
7	上車坂〔庶民〕	6.66	3.53	7.78	3.54	2.62	2.11			
8	芝公園〔武士〕	2.21	1.25	5.26	2.68	0.32	1.43	1.88		
9	天徳寺〔武士〕	4.97	3.03	4.08	1.07	1.11	0.48	2.66	0.97	
10	徳川将軍正室・側室	10.90	9.72	9.40	4.57	4.50	2.32	7.22	5.56	3.00
11	天福寺	4.87	1.77	3.93	0.78	2.22	0.87	2.35	1.58	1.33
12	北海道アイヌ	4.20	1.73	5.61	4.05	2.17	3.30	1.37	1.03	2.60
13	東北	2.56	1.88	6.21	1.87	0.68	1.13	3.20	0.84	1.03
14	関東	5.72	3.31	4.00	0.64	1.79	0.35	2.77	1.48	0.17
15	北陸	3.34	4.96	6.86	3.76	1.95	2.79	5.61	2.81	2.41
16	畿内	9.47	5.61	3.51	0.89	3.93	1.55	3.64	3.50	1.11
17	中国	9.08	5.13	1.80	1.35	4.31	2.24	3.95	3.60	1.65
18	九州	3.15	2.99	4.90	2.68	0.68	0.91	3.24	1.06	1.14
19	沖縄本島	6.65	3.94	3.39	2.59	3.67	3.27	2.93	2.69	2.17

表 12 (つづき—2)

		10	11	12	13	14	15	16	17	18
11	天福寺	5.44								
12	北海道アイヌ	9.76	2.67							
13	東北	4.30	1.25	3.24						
14	関東	3.20	0.88	3.09	1.17					
15	北陸	5.19	3.03	5.97	1.16	2.35				
16	畿内	4.48	2.06	4.32	3.34	0.74	4.27			
17	中国	6.13	1.94	3.78	4.08	1.25	5.11	0.41		
18	九州	2.82	1.51	3.59	0.86	1.39	1.88	3.53	3.76	
19	沖縄本島	9.37	2.41	1.93	3.71	1.96	4.47	1.64	1.21	4.49

- 埴原和郎編 (1981) 現代日本人頭骨の地理的変異に関する総合調査報告. 文部省科学研究費補助金研究成果報告書. pp. 1-46.
- 埴原和郎編 (1983) 現代日本人頭骨の地理的変異に関する総合調査報告 (II). 文部省科学研究費補助金研究成果報告書. pp. 1-78.
- 平井隆 (1927) 樺太アイヌ人々骨の人類学的研究, 第一部: 頭蓋骨の研究. 人類学雑誌, 42 (付録): 3-182.
- Howells W.W. (1973) Cranial variation in man. *Papers of the Peabody Museum of Archaeology and Ethnology, Harvard University*, 67: 1-259.
- 許鴻樑 (1948) 琉球人頭骨ノ人類学的研究. 国立台湾大学解剖学研究室論文集, 2: 227-330.
- 梶ヶ山真里 (2001) 中谷遺跡出土人骨の分析. 千葉県松尾町中谷遺跡, (財) 千葉県文化財センター, 千葉, pp. 87-92.
- 梶ヶ山真里 (n.d.a) 銀座8丁目遺跡出土人骨. 銀座8丁目遺跡 (仮), 中央区教育委員会, 東京, 印刷中.
- 梶ヶ山真里 (n.d.b) 滝台遺跡出土人骨. 滝台遺跡, (財) 印旛郡市文化財センター, 千葉, 印刷中.
- 梶ヶ山真里・馬場悠男 (1992) 修行寺跡出土人骨. 修行寺跡——(仮称) 富久町マンション新築工事にともなう緊急発掘調査報告書——, 新宿区修行寺遺跡調査団, 東京, 附編, pp. 1-9.
- 梶ヶ山真里・馬場悠男 (1993) 圓應寺跡出土人骨. 新宿区厚生部遺跡調査会編, 圓應寺跡——新宿区立若葉高齢者在宅サービスセンター建設に伴う緊急発掘調査報告書——, 新宿区厚生部遺跡調査会, 東京, pp. 85-97.
- 梶ヶ山真里・馬場悠男 (1999) 法光寺Ⅱ出土人骨. 法光寺跡Ⅱ——東京都下水道局による荒木町付近再構築工事に伴う緊急発掘調査報告書——, 新宿区法光寺跡遺跡調査団, 東京, pp. 35-43.
- 梶ヶ山真里・馬場悠男 (2002) 兼情遺跡出土人骨. 兼情横穴群・兼情遺跡・帝釈山岩——下小笠川捷水路建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書——, 大東町教育委員会, 静岡, pp. 325-333.
- 梶ヶ山真里・馬場悠男 (2003a) 汐留遺跡出土人骨. 汐留遺跡Ⅲ——旧汐留貨物駅跡地内の調査——第1分冊, 東京都埋蔵文化財センター, 東京, pp. 205-211.
- 梶ヶ山真里・馬場悠男 (2003b) 東京駅八重洲北口遺跡出土人骨. 東京駅八重洲北口遺跡, 千代田区東京駅八重洲北口遺跡調査会, 東京, pp. 721-726.
- 梶ヶ山真里・馬場悠男 (2004a) 宝竜寺跡出土人骨. 新宿区埋蔵文化財緊急調査報告集Ⅰ, 財団法人新宿区生涯学習財団, 東京, 印刷中.
- 梶ヶ山真里・馬場悠男 (2004b) 奥絵師狩野家墓所出土人骨. 印刷中.
- 梶ヶ山真里・馬場悠男 (n.d.) 外神田4丁目遺跡出土人骨. 外神田4丁目遺跡 (仮), 財団法人東京都埋蔵文化財センター, 東京, 印刷中.
- 梶ヶ山真里・溝口優司 (n.d.a) 浅草菊屋橋遺跡出土人骨. 台東区菊屋橋遺跡, 台東区文化財調査会, 東京, 印刷中.
- 梶ヶ山真里・溝口優司 (n.d.b) 台東区NO.57遺跡出土人骨. 台東区NO.57遺跡, 台東区文化財調査会, 東京, 印刷中.
- 梶ヶ山真里・溝口優司 (n.d.c) 豊住町遺跡出土人骨. 豊住町遺跡, 台東区文化財調査会, 東京, 印刷中.
- 梶ヶ山真里・佐宗亜依子・大谷江里・白波瀬亜由実・阿部仁・馬場悠男 (2003) 八丁堀三丁目遺跡 (第2次) 出土人骨. 八丁堀三丁目遺跡Ⅱ——中央区八丁堀三丁目20番宿泊施設建設に伴う緊急発掘調査報告書——, 中央区教育委員会, 東京, pp. 220-225.
- 金関丈夫・原田忠昭・浅川清隆 (1955) 熊本県下益城郡豊田村御領貝塚発掘の人骨について. 人類学研究, 2: 93-163.
- 欠田早苗 (1959) 畿内人頭蓋骨の人類学的研究: 現代畿内人骨と江戸時代後期墳墓骨について. 人類学輯報, 25: 53-83.
- 加藤征編 (1991) 江戸時代人骨の形質に関する人類学的研究. 平成2年度科学研究費補助金一般研究B研究成果報告. pp. 1-160.
- 川久保善智 (2001) 頭蓋計測に基づく東北部江戸時代人の形態人類学的位置付け. 東北大学大学院医学系研究科修士論文, pp. 1-34.
- 九州大学医学部解剖学第二講座 (1988) 日本民族・文化の生成, 2: 九州大学医学部解剖学第二講座所蔵古人骨資料集成. 六興出版, 東京, pp. 1-530.
- Martin R. und Saller K. (1957) *Lehrbuch der Anthropologie*, dritte Aufl., Bd. I. Gustav Fischer Verlag, Stuttgart. pp. 1-661.
- 松村博文 (2003) 汐留遺跡4K地点出土の近世人骨について. 汐留遺跡Ⅲ——旧汐留貨物駅跡地内の調査——第1分冊, 東京都埋蔵文化財センター, 東京, pp. 201-204.
- 松村博文・梶ヶ山真里 (2000) 出土人骨. 川口町十内入東遺跡 (東京都埋蔵文化財センター調査発掘報告書第91集), 東京都埋蔵文化財センター, 東京, pp. 36-45, 190, 302-306.
- 溝口優司 (1997) 池之端七軒町遺跡出土人骨について. 台東区池之端七軒町遺跡調査団編, 池之端七軒町遺跡 (慶安寺跡), 台東区池之端七軒町遺跡調査会, 東京, pp. 289-303.
- 宮本博人 (1924) 現代日本人骨の人類学的研究, 第一部: 頭蓋骨の研究. 人類学雑誌, 39: 307-451.
- 森本岩太郎・小片丘彦・平本嘉助・吉田俊爾 (1985) 人骨. 都立一橋高校内遺跡調査団編, 江戸——都立一橋高校地点発掘調査報告——, 都立一橋高校内遺跡調査団, 東京, pp. 522-546.
- 森田茂 (1950) 関東地方人頭蓋骨の人類学的研究. 東京慈恵会医科大学解剖学教室業績集, 3: 1-59.
- 森田茂・河越逸行 (1960) 湯島無縁坂出土の江戸時代人頭蓋骨の人類学的研究補遺. 人類学雑誌, 67: 278-295.
- Nagaoka T. (2003) Secular changes in Japanese crania from the late Edo period to the modern period. *Anthropological Science*, 111: 1-29.
- 中橋孝博・永井昌文 (1985) 山口県下関市吉母浜遺跡出土人骨. 吉母浜遺跡, 下関市教育委員会, 山口, pp. 154-225.
- 大場利夫 (1973) 日高アイヌ頭蓋の人類学的研究. 北方文化研究, 7: 65-220.
- 奥野忠一・久米均・芳賀敏郎・吉澤正 (1971) 多変量解析法. 日科技連, 東京.
- Rao C.R. (1952) *Advanced Statistical Methods in Biometric Research*. Hafner Publishing Co., Darien.
- Suzuki H. (1956) Changes in the skull features of the Japanese people from ancient to modern times. In: Wallace A.F.C. (ed.), "Men and Cultures," University of Pennsylvania Press, Philadelphia, pp. 717-724.
- 鈴木尚 (1967) 徳川将軍および家族の遺体. VI 頭骨. 鈴木尚・矢島恭介・山辺知行編, 増上寺徳川将軍墓とその遺品・遺体, 東京大学出版会, 東京, pp. 121-274.
- Suzuki H. (1969) Microevolutional changes in the Japanese population from the prehistoric age to the present-day. *Journal of the Faculty of Science, University of Tokyo, Sec. V, Vol. 3*,

Part 4: 279–308.

鈴木尚・林都志夫・田辺義一・佐倉朔（1956）頭骨の形質.
日本人類学会編，鎌倉材木座発見の中世遺跡とその人骨，
岩波書店，東京．pp.75–148，191–194.

山崎正文・山崎正博・欠田早苗・栗栖浩二郎（1967）東北
日本人頭蓋の人類学的研究．人類学雑誌，75: 94–99.
阮徳茂（1960）西螺平埔族頭骨の人類学的研究．人類学研
究，7: 243–285.